

独立行政法人日本芸術文化振興会 御中

令和7年度 国立劇場養成所 応募者確保のための調査

2026年3月23日

1. 調査概要 3
調査全体の概要	
調査項目	
2. 調査結果 7
属性	
趣味・SNS	
進路決定への関わり方	
伝統芸能の認知・興味関心	
進路指導の取り組み・情報収集	
伝統文化・芸能における学校での学び	
伝統芸能の進路指導経験	
進路指導における伝統芸能の推奨意向	
養成所の認知	
伝統芸能に関する情報・養成所に希望すること	
3. 今後に向けた提言 38
ご提案内容まとめ	
伝統芸能を組み込んだキャリア教育の促進	
伝統芸能を職業にするまでの道筋と職業としてのやりがいの提示	

1. 調査概要

調査目的

国立劇場養成所における認知度向上と継続的な研修生応募者の獲得という課題に対応するために、将来の職業選択に係る進路検討を開始する中学校、高等学校の生徒、高等専門学校、専修学校の学生を指導する教員を対象に本件調査を実施のうえ分析し、研修生応募者確保のための今後の対応策を提案する。

調査方法

インターネット調査モニターへのインターネット調査

調査期間

2026年1月22日（木）～1月29日（木）

調査対象

全国22～65歳男女 中学、高校、高専、専門学校の教員

・文化芸術系の進路相談を受けたことがある人（関心層）

➡「生徒が進んだ・相談を受けた進路に伝統芸能系の進路がある」(SC5) または
 「生徒に伝統芸能系進路を提示したことがある」(Q10) または
 「生徒が進んだ・相談を受けた進路に伝統芸能以外の芸術系の進路がある」(SC5) かつ
 「伝統芸能へ興味・関心がある」(SC9)対象者

・伝統芸能への興味・関心が高くない人（一般層）

➡関心層に含まれない対象者

調査件数

・スクリーニング調査：1,500サンプル
 ・本調査：1,029サンプル
 ├関心層307サンプル
 └一般層722サンプル

調査実施機関

株式会社サーベイリサーチセンター

【本調査】回収割付

調査対象			対象者数（人）	
関心層	男性	30代以下	29	307
		40代以上	218	
	女性	30代以下	11	
		40代以上	49	
関心層	男性	30代以下	51	722
		40代以上	528	
	女性	30代以下	37	
		40代以上	106	
合計			1,029	

項目	NO.	WEB調査の設定・選択肢
属性①	F1	あなたの性別を選択してください。
	選択肢	男性、女性、その他
	F2	あなたの年齢をお知らせください。
選択肢	自由回答	
	F3	あなたのお住まいを選択してください。
選択肢	47都道府県	
	SC1	あなたのお勤め先の学校について教えてください。
選択肢	中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、専修学校・専門学校、大学・大学院・その他の学校、学校には所属していない（転職・退職等）	
	SC2	あなたのお勤め先の学校の区分を教えてください。 ※選択肢に最も近いものをお答えください。
選択肢	全日制課程の国公立、全日制課程の私立、定時制課程の国公立、定時制課程の私立、通信制課程の国公立、通信制課程の私立	
	SC3	あなたのお勤め先の学校の所在地を教えてください。
選択肢	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、海外	
	SC4	あなたは、学生の進路決定にどの程度関わった経験がありますか。
選択肢	進路担当者など、生徒・学生の進路相談の担当者である、進路担当者ではないが、生徒・学生の進路相談に応じたことがある、生徒・学生の進路決定や進路相談に関わったことはない	
	SC5	あなたが関わった生徒・学生が進路として選んだことがある分野、あるいは相談を受けたことがある分野をそれぞれ選択してください。 【質問項目：生徒・学生が進路として選んだことがある分野、生徒・学生から相談を受けたことがある分野】
選択肢	美術、音楽（日本の伝統音楽を除く）、演劇（日本の伝統芸能を除く）、オペラ、バレエ、ダンス、日本舞踊、歌舞伎、人形浄瑠璃・文楽、能・狂言、落語、太神楽、日本の伝統音楽（三味線・笛など）、その他の日本の伝統芸能、進学（芸術系を除く）、就職（芸術家等を除く）、その他（起業など）、分からない	
	SC6	あなたが教員として働いている年数を教えてください。
選択肢	5年未満、5年以上10年未満、10年以上15年未満、15年以上20年未満、20年以上	
	SC7	あなたの担当教科・科目について選択してください。
選択肢	国語、数学、理科（物理・化学・生物・地学）、地歴（日本史・世界史・地理）、公民（倫理・政治・経済）、外国語（英語）、音楽、美術、保健体育、家庭、情報、職業（農業、工業、商業、水産、福祉など）、その他	

伝統芸能の認知・関心	SC8	あなたは以下の伝統芸能を知っていますか。 【質問項目：歌舞伎・日本音楽（三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など）・能楽（能・狂言）・人形浄瑠璃文楽・日本舞踊・寄席の芸能（落語・講談・太神楽・漫才・奇術など）・雅楽・組踊・その他】
	選択肢	鑑賞をしたことがある、体験をしたことがある、鑑賞・体験どちらもしたことがある、鑑賞・体験はしたことはないが内容は知っている、芸能のジャンル（部門・種類）は知っている、名前だけ知っている、名前も内容も知らない
	SC9	あなたは以下の伝統芸能に興味・関心はありますか。 【質問項目：歌舞伎・日本音楽（三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など）・能楽（能・狂言）・人形浄瑠璃文楽・日本舞踊・寄席の芸能（落語・講談・太神楽・漫才・奇術など）・雅楽・組踊・その他】
選択肢	興味・関心がある、どちらかといえば興味・関心がある、どちらかといえば興味・関心がない、興味・関心がない	
進路指導の取り組み・情報収集	Q1	生徒・学生のキャリア形成に向けて、どのような取り組みをしていますか／していましたか。
	選択肢	卒業生や地域の方を招いた講話や交流、職場見学／体験・インターンシップの実施、地域活動やボランティアへの参加、地域文化や伝統芸能の鑑賞・交流、職業や業界についてのキャリアに関する授業、進路に関する個別面談や進路相談、その他
	Q2	生徒・学生への進路指導や情報提供にあたり、主どのような資料・媒体から情報を収集していますか／していましたか。
	選択肢	進路情報誌・職業図鑑（民間企業が発行している）、実施要項・ガイドライン（文科省や教育委員会発行）、求人票（学校に直接届く）、各学校・団体のパンフレットや募集要項、各学校・団体の公式HP、就職情報誌、書籍、新聞、テレビ・ラジオ、インターネット、SNS、Youtube等の動画サイト、合同企業説明会・就職イベント（地域や自治体・民間企業が主催するもの）、学校・企業意見交換会（教員と企業担当者が直接情報交換する場）、進学相談会・オープンキャンパス（各学校が主催するもの）、各学校・団体による「出前授業」や「説明会」（講師が来校して行うもの）、職場見学・インターンシップの引率、その他、特になし
	Q3	生徒・学生への進路指導や情報提供にあたり、情報収集を行う／行っていた頻度を教えてください。
選択肢	週に1〜2回程度、月に1〜2回程度、長期休暇（夏休み・冬休み）などの節目にまとめて、ほとんどない、その他	
	Q4	収集した情報のうち、実際に進路指導や情報提供をする際に手元に準備している／準備していた資料を教えてください。
選択肢	自校の過去の合否実績データ、業者模試の個人成績表・判定表、求人票、卒業生実績、進路希望調査票、各学校・団体のパンフレットや募集要項、適性検査・興味関心チェックの結果、大学編入や専門職に特化した実績資料、その他	
伝統文化・芸能における学校での学びについて	Q5	あなたのお勤め先の学校では伝統について学ぶ授業はありますか。 ※社会や公民の授業の中で一部触れるものは除き、伝統に特化した授業や課外活動を指します 【質問項目：伝統芸能（能・狂言、日本舞踊、歌舞伎、文楽（人形浄瑠璃）落語等）・伝統工芸（陶磁器、漆器、染織、和紙等）・伝統芸道（茶道・華道等）】
	選択肢	現在もある、過去にあった、今まで一度もない、今後取り入れる予定
	Q6	日本の伝統芸能について、どのような方法で学習をしていますか。 ※取り入れる予定で現状授業を行っていない場合は、今後の想定を回答してください。
	選択肢	座学（テキストを読んで学ぶ）を受ける、映像を見る、講演会（校内）、講演会（外部）、実技体験（校内）、実技体験（外部）、見学（舞台内部、お稽古）、劇場での観賞・観劇、その他、内容を知らない
	Q7	日本の伝統芸能について、生徒・学生が最も興味関心を示すのはどのような要素だと考えますか。
選択肢	演目の鑑賞、実際に道具に触れる、音を出す体験、歴史や背景などの解説、現代の音楽や文化とコラボレーションした演出、その他	
	Q8	日本の伝統文化について、学ぶ授業がない理由としてどのようなことが当てはまりますか。
選択肢	外部講師（実演家）との接点がない、予算の確保が難しい、道具（楽器や衣装など）を揃えることが難しい、授業時間の確保が難しい、専門知識がなく、指導ができない、生徒・学生たちの興味関心が薄いと感じる、必修科目（受験に必要な科目）に比べて優先順位が低い、その他	
	Q9	伝統芸能に関わる団体から以下の支援を受けたとして、協力したいと思えるものはありますか。
選択肢	学習指導案（授業の進め方）の提供、短時間で実施可能な簡単なワークショップ、オンラインでの実演・解説、学校の授業で使える動画教材や道具の貸出、講師・アシスタントの派遣、その他、特になし	

進路指導における伝統芸能について	Q10	これまでの進路指導において、「伝統芸能」を選択肢として提示したことはありますか。
	選択肢	何度もある、1～2回はある、検討したことはあるが、提示したことはない、全く検討していない
	Q11	「伝統芸能」を進路の選択肢として提示した主な理由を教えてください。
	選択肢	生徒・学生自身から相談されたから、生徒・学生自身の適正を活かせる進路だから、幅広い進路を提示したいから、過去、他の生徒・学生に提示していたから、保護者の意向があったから、その他
	Q12	「伝統芸能」を進路の選択肢として提示をしたことがない主な理由を教えてください。
	選択肢	生徒・学生から相談されたことがないから、具体的な募集情報（国立劇場の研修生など）を知らないから、職業として成立するイメージが持てないから（経済面など）、指導のための資料が手元にないから、進学・就職を優先とした進路指導を行っているから、その他
	Q13	伝統芸能の進路について、どのような説明をしていますか。選択肢に最も近いものをお答えください。
	選択肢	伝統芸能に関わる仕事を目指す学校・学科の存在や、具体的なカリキュラムおよび進学方法などについて説明する、伝統芸能に関わる仕事を目指す学校・学科の存在を説明する、伝統芸能や、伝統芸能に関わる仕事の存在を説明する
	Q14	これまでの進路指導の中で、「伝統芸能」に関わる仕事に就いた方はいますか。
	選択肢	伝統芸能に関する進路指導や支援を行い、伝統芸能に関わる仕事に就いた、伝統芸能に関する進路指導や支援を行ったが、伝統芸能に関わる仕事に就かなかった、その他
	Q15	あなたは、生徒・学生が伝統芸能の職業に就くことを（先生の立場で）勧めたいと思いますか。
	選択肢	勧めたい、勧めてもよい、できれば勧めたくない、勧めたくない
	Q16	生徒・学生に伝統芸能の職業に就くことを（先生の立場で）勧めてもよいと考える理由はありますか。
	選択肢	やりがいのある仕事だと思うから、専門性を高められる仕事だと思うから、人と違う仕事に就いてほしいから、舞台に立つ仕事に就いてほしいから、音楽に関わる仕事に就いてほしいから、生徒・学生の家族が勧めているから、生徒・学生の親戚・友人・知人が勧めているから、生徒・学生の家族に経験者がいるから、生徒・学生の親戚・友人・知人に経験者がいるから、生徒・学生の部活・サークル・習い事などの経験を活かせるから、安定しているから、お金を掛けずにになれるから、未経験から始められるから、長く続けられる職業だと思うから、伝統芸能の担い手を育てたいから、本人の希望だから、その他、特になし
	Q17	生徒・学生が伝統芸能の職業に就くことについて、あなたが不安に感じることはありますか。
選択肢	生徒・学生が他に希望している進路がありそう、生徒・学生に進んで欲しい進路が他にあり、始め方がわからない、生徒・学生に適性があるかわからない、募集の頻度が少ない、募集している年齢が合わない、募集している性別が合わない、将来のキャリアイメージがつかない、プロになるまでにお金がかかりそう、収入が低そう、安定した仕事量が得られなさそう、生徒・学生の親が反対する、将来性のある仕事かわからない、身体的・精神的な負担が大きそう、生徒・学生が伝統芸能に興味がない、プロになって活躍できるかわからない、長く続けることが難しい、プロになるまでのタイミングが早い、他の進路への選択肢がなくなってしまふ、その他、特になし	
国立劇場養成所について	Q18	あなたは、国立劇場養成所を知っていますか。 ※国立劇場養成所：伝統芸能の新たな担い手を養成する場所
	選択肢	どのような養成所か知っており、どのような養成所か知っている、名前を聞いたことはある、知らない
	Q19	あなたは、国立劇場養成所を何で知りましたか。
	選択肢	伝統芸能公演会場内の掲示やパンフレット、美術館・博物館・コンサートホール内の掲示やパンフレット、学校内の掲示やパンフレット、駅や電車の掲示やパンフレット、商業施設内の掲示やパンフレット、家族から聞いた、親戚・友人・知人から聞いた、学校・習い事の先生から聞いた、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、X(旧Twitter)、Instagram、Youtube、TikTok、ウェブサイトやブログ、その他
	Q20	あなたは、一般の人で経験がなくても国立劇場養成所の研修生に応募ができることを知っていますか。 ※国立劇場養成所：伝統芸能の新たな担い手を養成する場所
	選択肢	知っている、知らない
	Q21	あなたが伝統芸能を生徒・学生の職業として考える上で知りたい情報はありますか。 ※職業として考えていない場合は、考える場合を想像して回答してください。
	選択肢	伝統芸能のプロになるための訓練を受けられる養成所の概要、養成所での研修期間や1日の研修スケジュール、養成所のカリキュラムや講師陣、養成所と学校・アルバイトとの両立、養成所のサポート体制（奨学金・宿舍・住宅費補助など）、プロになるために必要な能力、プロになった後のキャリアイメージ、プロになるまでの研修中にかかる費用、養成所修了後にプロになった場合の年収、研修修了後にプロになった場合の社会保険・福利厚生・休日数、研修修了後にプロになった場合の具体的な仕事内容、研修修了後にプロになった場合の仕事のスケジュールの決め方、養成所修了者の活躍、伝統芸能の世界の環境・気風・人間関係、定着率・離職率、その他
	Q22	あなたが伝統芸能の公演や体験、募集の情報を目にしたことがある、耳にしたことがある場面を選択してください。
	選択肢	伝統芸能公演会場内の掲示やパンフレット、美術館・博物館・コンサートホール内の掲示やパンフレット、学校内の掲示やパンフレット、駅や電車の掲示やパンフレット、商業施設内の掲示やパンフレット、家族から聞いた、親戚・友人・知人から聞いた、学校・習い事の先生から聞いた、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、X(旧Twitter)、Instagram、Youtube、TikTok、ウェブサイトやブログ、その他、伝統芸能の情報を見かけたことがない
Q23	あなたは、伝統芸能を学ぶ養成所がどのようなところであれば生徒・学生を勧めたいと思いますか。あてはまるものを全て選択してください。 ※職業として考えていない場合は、考える場合を想像して回答してください。	
選択肢	修了後は必ずプロになれる、人間国宝などの一流の講師から指導を受けられる、プロの公演で実習する機会がある、学校・アルバイトと両立できる、受講料がかからない、研修中に経済的支援（奨学金・宿舍・住宅費補助など）を受けられる、研修修了後もサポート（道具貸与・仕事の斡旋など）を受けられる、研修修了後に十分な仕事や収入が得られる、年齢制限なく始められる、研修生になる前に実際の研修を体験できる、性別に関係なく始められる、未経験から始められる、少人数での指導を受けられる、その他	

属性の	Q24	お勤め先の学校の部活動に携わっている場合は、担当の部活動を教えてください。
	選択肢	野球部、サッカー部、バスケットボール部、バドミントン部、テニス部、バレーボール部、水泳部、陸上部、剣道部、柔道部、空手部、弓道部、軽音楽部、吹奏楽部、合唱部、美術部、漫画研究部、写真部、書道部、華道部、茶道部、囲碁・将棋部、放送部、天文部、その他、担当していない
	Q25	あなたの趣味を教えてください。
	選択肢	スポーツ・体を動かすこと、スポーツ観戦、演芸・演劇・舞踊鑑賞、映画・アニメ・Youtube等動画配信サイト鑑賞、写真撮影、クラシック音楽鑑賞、ポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞、ライブ観戦、楽器の演奏、歌・ボカール・コーラス・声楽、カラオケ、美術・絵画・造形・美術鑑賞、囲碁・将棋、読書、YouTubeなどインターネットでの動画配信、ブログやSNS投稿、ゲーム、メイク・ファッション、その他、趣味はない
	Q26	あなたが普段利用しているSNSは何ですか。プライベートと仕事においてどのSNSで情報収集をしているかを教えてください。 【質問項目：プライベートでの情報収集・仕事における情報収集】
選択肢	LINE、WhatsApp、X(旧Twitter)、Mastodon、Facebook、mixi、LinkedIn、Instagram、YouTube、TikTok、17LIVE、Pococha、Voicy、stand.fm、BeReal、その他、利用していない	

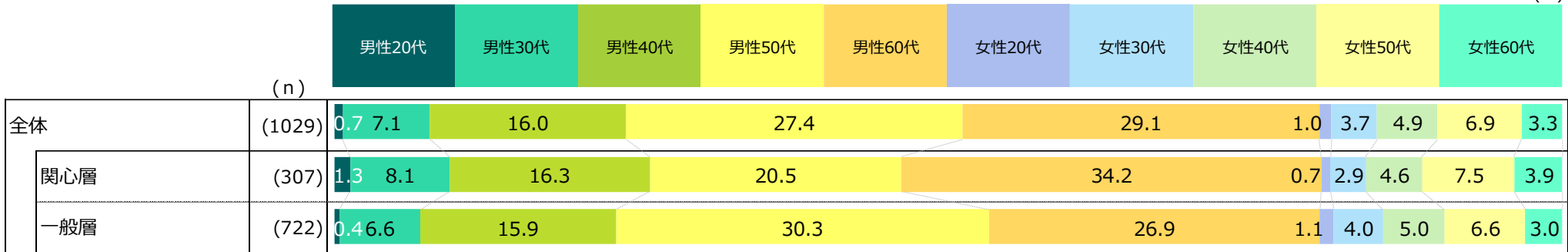
2. 調査結果

調査結果の留意点

- ・%の数値は、小数第2（または第3位）を四捨五入し、小数第1位（または第2位）までを表示しています。そのため、各回答の数値の合計が100%とならない場合があります。
- ・基数となるべき実数はnとして掲載しています。
- ・回答の基数（サンプルサイズ）が少ない場合や大きな差異が見られない場合は、解説で当該集計結果に触れていない場合があります。
- ・一部設問を除き、単一回答（1つだけ選択）は帯グラフ、複数回答（2つ以上選択可能）は棒グラフで表しています。
- ・SC設問の調査結果は、SC設問のみの回答者（中学、高校、高専、専門学校の教員でない人）を除外しています。
- ・一部属性設問については、設問の位置を入れ替えています。

性年代

(%)



都道府県

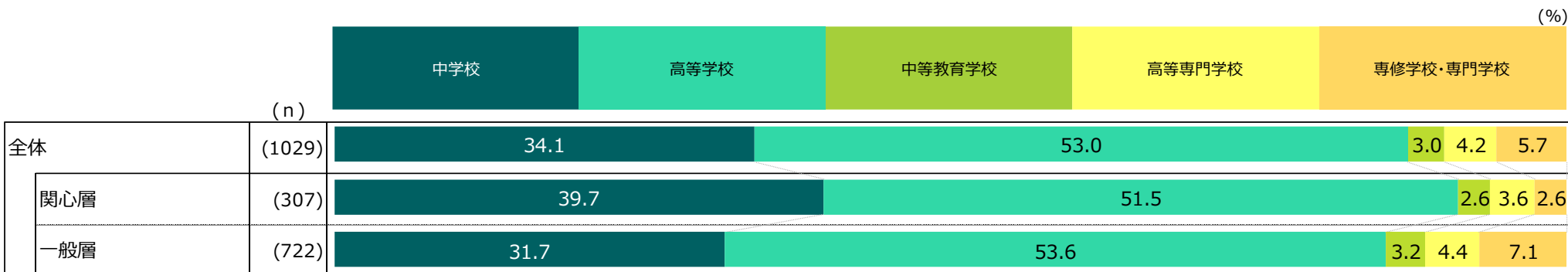
(%)

	n	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県
全体	1029	6.2	1.8	1.6	2.3	1.3	1.0	2.7	1.4	1.3	1.5	4.1	4.0	9.1	4.9	1.9	0.8	0.4	1.0	0.5	1.8	1.6	3.1	6.3
関心層	307	5.5	1.6	1.3	2.3	1.3	1.6	2.6	1.0	1.0	1.3	4.6	3.9	11.1	5.9	1.0	0.7	0.3	1.0	0.3	2.0	2.3	5.5	6.5
一般層	722	6.5	1.9	1.7	2.4	1.2	0.7	2.8	1.5	1.4	1.5	3.9	4.0	8.3	4.4	2.4	0.8	0.4	1.0	0.6	1.8	1.2	2.1	6.2

	n	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
全体	1029	1.3	1.0	2.0	7.2	5.2	1.5	1.1	0.8	1.1	2.1	2.4	0.7	0.4	0.9	1.1	1.0	4.0	1.0	0.6	1.2	0.6	0.7	1.6	0.5
関心層	307	1.3	0.7	2.9	8.8	4.2	2.6	0.7	0.3	0.0	2.6	2.6	0.7	0.3	1.3	0.3	0.3	2.9	0.7	0.3	1.6	0.3	0.0	0.0	0.0
一般層	722	1.2	1.1	1.7	6.5	5.5	1.0	1.2	1.0	1.5	1.9	2.4	0.7	0.4	0.7	1.4	1.2	4.4	1.1	0.7	1.0	0.7	1.0	2.2	0.7

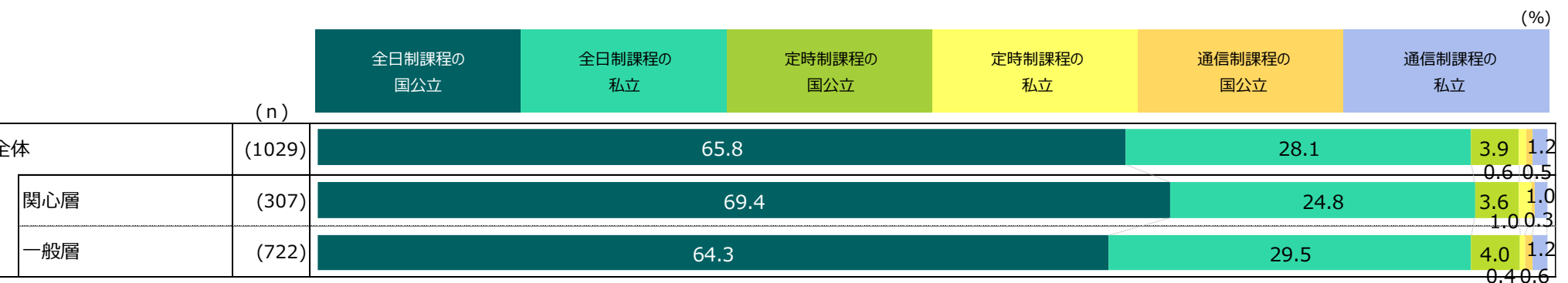
- ◆ いずれの層においても「高等学校」が半数以上と最も多く、次いで「中学校」が3割台となっており、8割以上が「高等学校」「中学校」のいずれかとなっている。
- ◆ 関心層は、一般層と比較して「中学校」が8.0ポイント高い。

SC1.あなたのお勤め先の学校について教えてください。（単一回答）



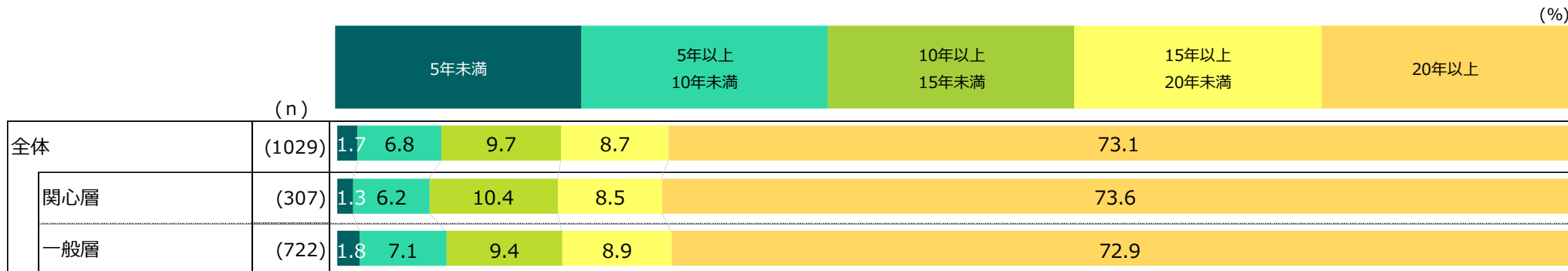
- ◆ いずれの層においても、「全日制課程の国公立」が最も多く6割を超え、次いで「全日制課程の私立」が2割台、「定時制課程の国公立」と続く。

SC2.あなたのお勤め先の学校の区分を教えてください。※選択肢に近いものをお答えください。（単一回答）



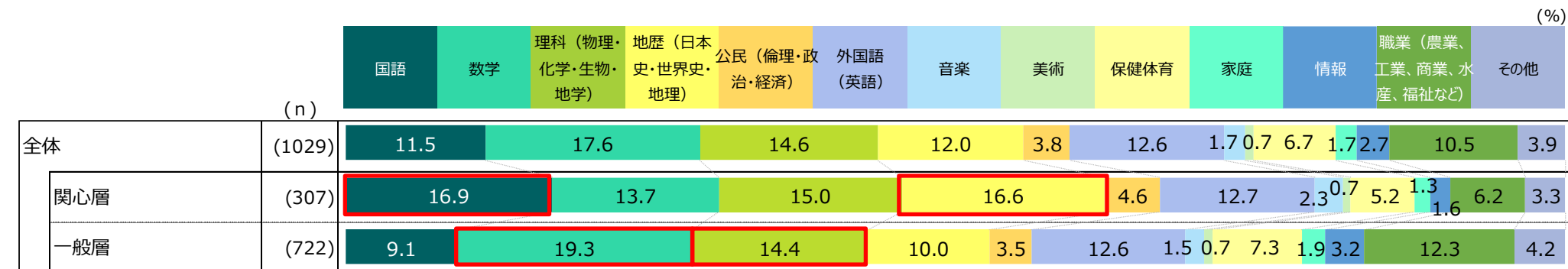
◆いずれの層においても「20年以上」が最も高く7割を超えており、次いで「10年以上15年未満」、「15年以上20年未満」と続く。

SC6.あなたが教員として働いている年数を教えてください。(単一回答)



◆関心層では「国語」(16.9%)、一般層では「数学」(19.3%)がそれぞれ最も多い。また、それぞれ2位について関心層は「地歴(日本史・世界史・地理)」(16.6%)、一般層は「理科(物理・化学・生物・地学)」(14.4%)となっており、関心層では文系科目、一般層では理系科目が高い割合を示している。

SC7.あなたの担当教科・科目について選択してください。(単一回答)

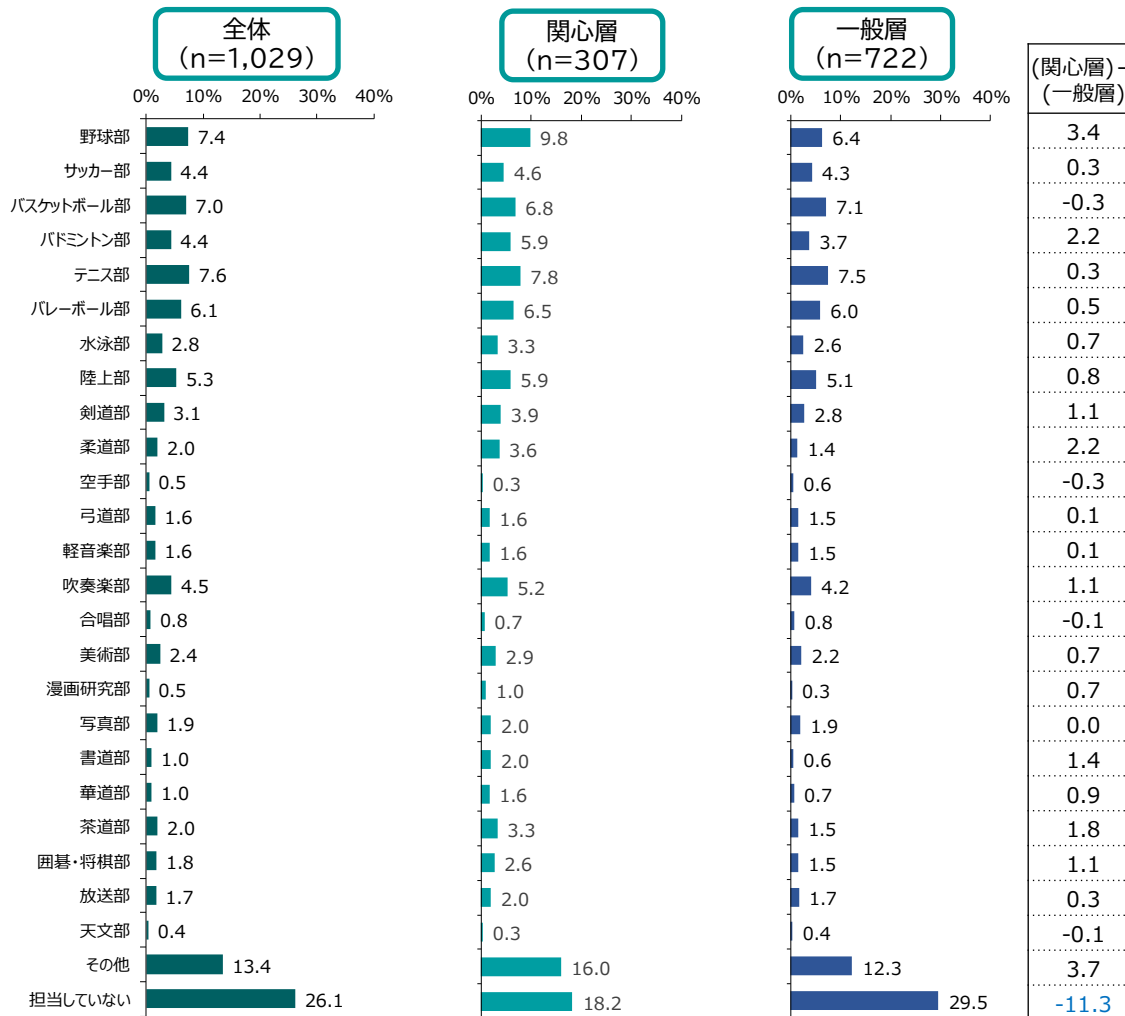


- ◆その他FA
- ・養護教諭(9件)
 - ・日本語(4件)
 - ・医療(2件)
 - ・宗教科(2件)
 - ・技術(4件)
 - ・特別支援(3件)
 - ・管理職(2件)
 - ・看護学
 - ・経営
 - ・書道、芸術書道
 - ・工学
 - ・進路
 - ・地域コミュニティ、ビジネスプランコンテスト
 - ・福祉

◆いずれの層においても「担当していない」が最も多く、次いで「その他」となっている。「担当していない」は一般層が関心層よりも11.3ポイント高い。

Q24.お勤め先の学校の部活動に携わっている場合は、担当の部活動を教えてください。(複数回答)

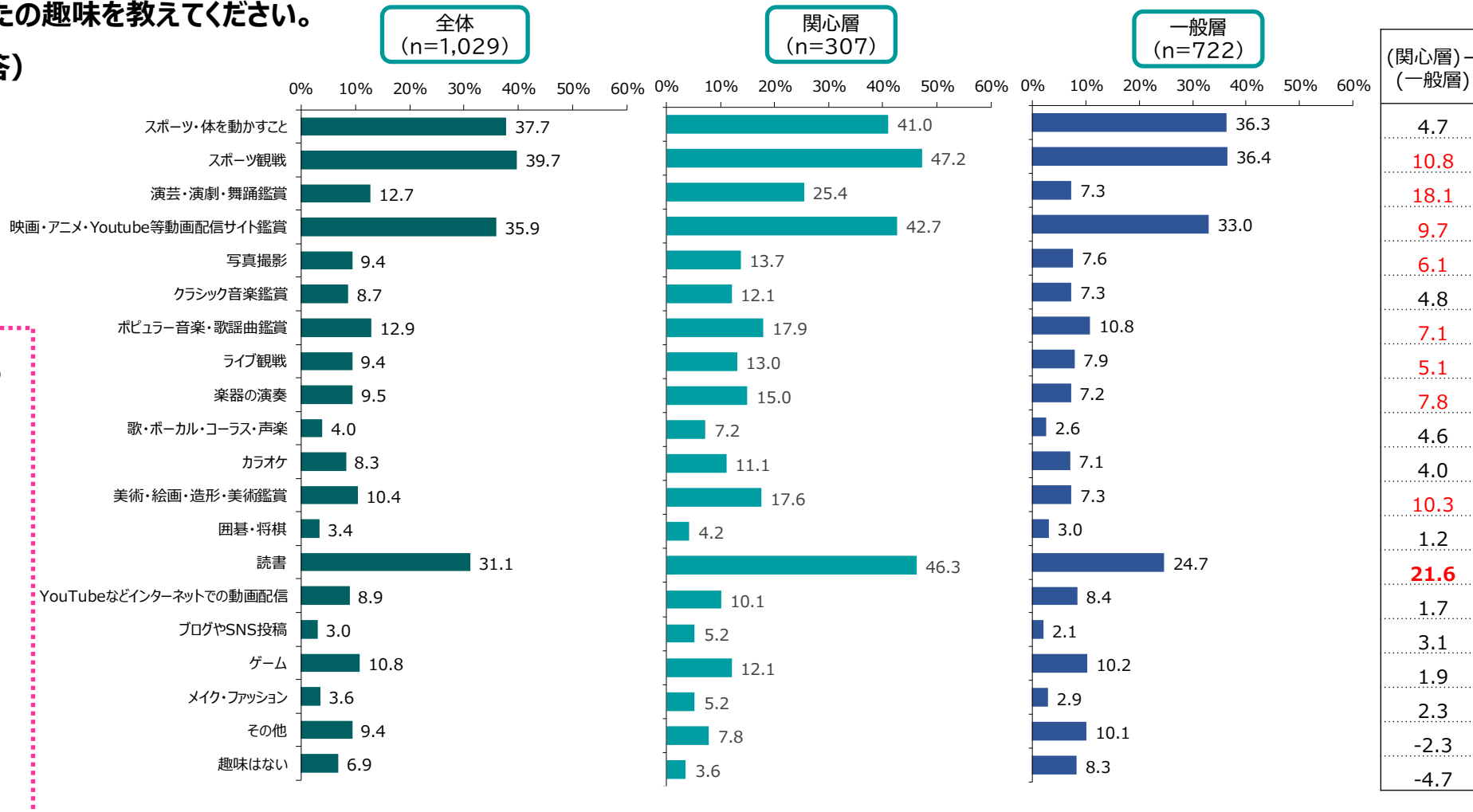
- ◆その他FA
- ・スキー部 (3件)
- ・体操部 (3件)
- ・ソフトテニス部 (2件)
- ・ローイング (2件)
- ・弓道部 (2件)
- ・競技かるた (2件)
- ・自然科学部 (2件)
- ・写真部 (2件)
- ・歴史研究部 (2件)
- ・DC部
- ・ess
- ・eスポーツ
- ・アーチェリー
- ・イラスト部
- ・クッキング部
- ・クリケット
- ・コンピューター部
- ・ダンス部、生物部
- ・デイバート
- ・パソコン部
- ・ビジネス
- ・ファッションアート部
- ・フライングディスク部
- ・ロボット研究
- ・ワープロ
- ・映画研究部
- ・英語部
- ・家庭部
- ・器械体操部
- ・居合道
- ・考古学研究部
- ・山岳部
- ・自然探究部
- ・自転車競技 ライフル射撃
- ・自動車部
- ・社会科部
- ・商業部
- ・情報
- ・図書部
- ・生徒会
- ・折り紙
- ・地理
- ・日本拳法部
- ・文芸
- ・文芸、理科
- ・弁論部
- ・邦楽部
- ・無線
- ・模型
- ・理科部



◆いずれの層においても「スポーツ観戦」が最も高い。関心層は、次いで「読書」(46.3%)、「映画・アニメ・Youtube等動画配信サイト鑑賞」(42.7%)が多く、「読書」は一般層と比較して21.6ポイントの差がみられる。一般層は、「スポーツ観戦」に次いで「スポーツ・体を動かすこと」(36.3%)、「映画・アニメ・Youtube等動画配信サイト鑑賞」(33.0%)が続く。

Q25.あなたの趣味を教えてください。

(複数回答)



- ◆その他FA
- ・登山 (2件)
- ・アマチュア無線 (2件)
- ・競馬 (2件)
- ・書道 (2件)
- ・模型 (2件)
- ・DIY (2件)
- ・TOEIC
- ・アンティーク
- ・ウイスキー
- ・キャンブル
- ・ハイキング
- ・ビリヤード
- ・ヨガ
- ・ポイ活、
- ・マッサージ
- ・ヨット
- ・学習
- ・機械いじり
- ・犬の散歩
- ・車
- ・手芸
- ・食事
- ・推し活
- ・数学
- ・キャンプ
- ・投資
- ・日曜大工
- ・無線
- ・落語
- ・ショッピング

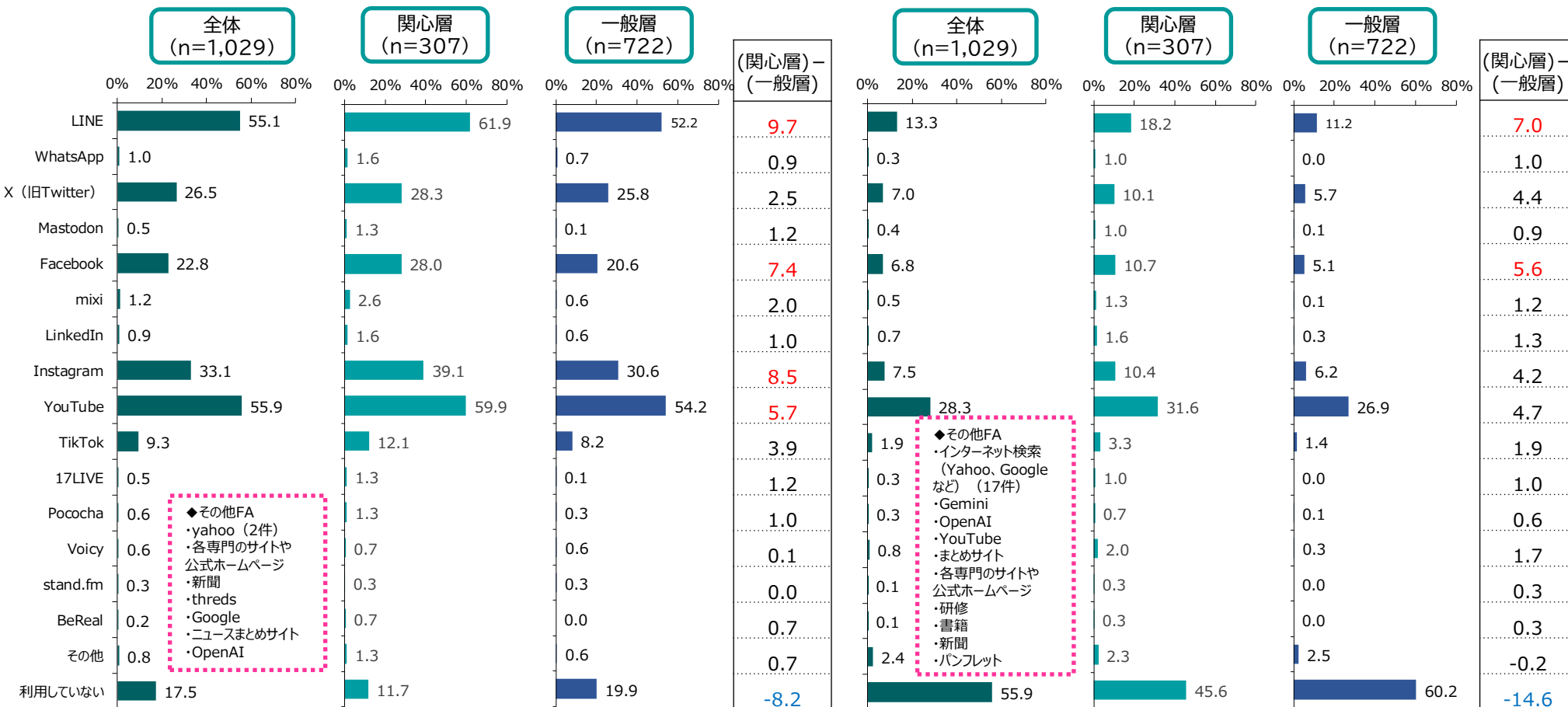
- ◆『1. プライベートにおける情報収集SNS』について、関心層は「LINE」(61.9%) が最も多く、次いで「YouTube」(59.9%)、「Instagram」(39.1%) が続く。一般層は「YouTube」(54.2%) が最も多く、次いで「LINE」(52.2%)、「Instagram」(30.6%) が続く。
- ◆『2. 仕事における情報収集SNS』について、いずれの層も「利用していない」が最も多く、一般層が関心層を14.6ポイント上回っている。次いで「YouTube」、「YouTube」、「LINE」が続く。

Q26.あなたが普段利用しているSNSは何ですか。プライベートと仕事においてどのSNSで情報収集をしているかを教えてください。

(複数回答)

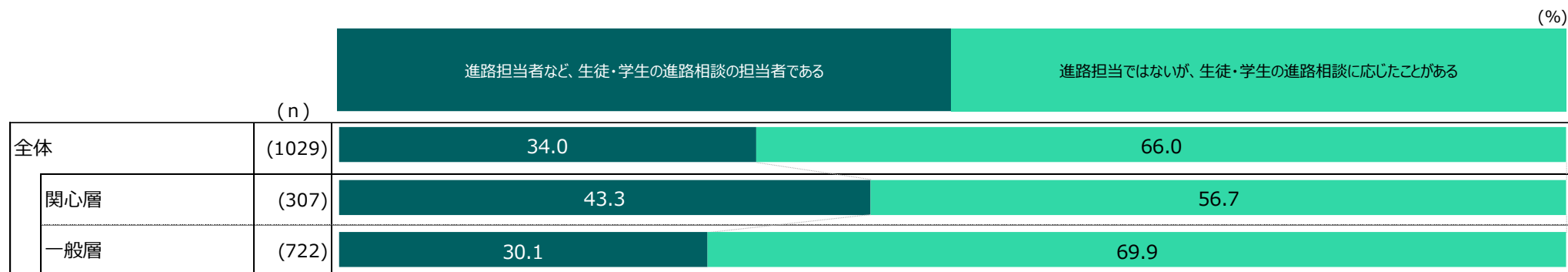
1. プライベートにおける情報収集SNS

2. 仕事における情報収集SNS



- ◆いずれの層においても「進路担当ではないが、生徒・学生の進路相談に応じたことがある」が半数以上を占めている。
- ◆関心層では「進路担当者など、生徒・学生の進路相談の担当者である」が4割以上となっている。

SC4.あなたは、学生の進路決定にどの程度関わった経験がありますか。（単一回答）

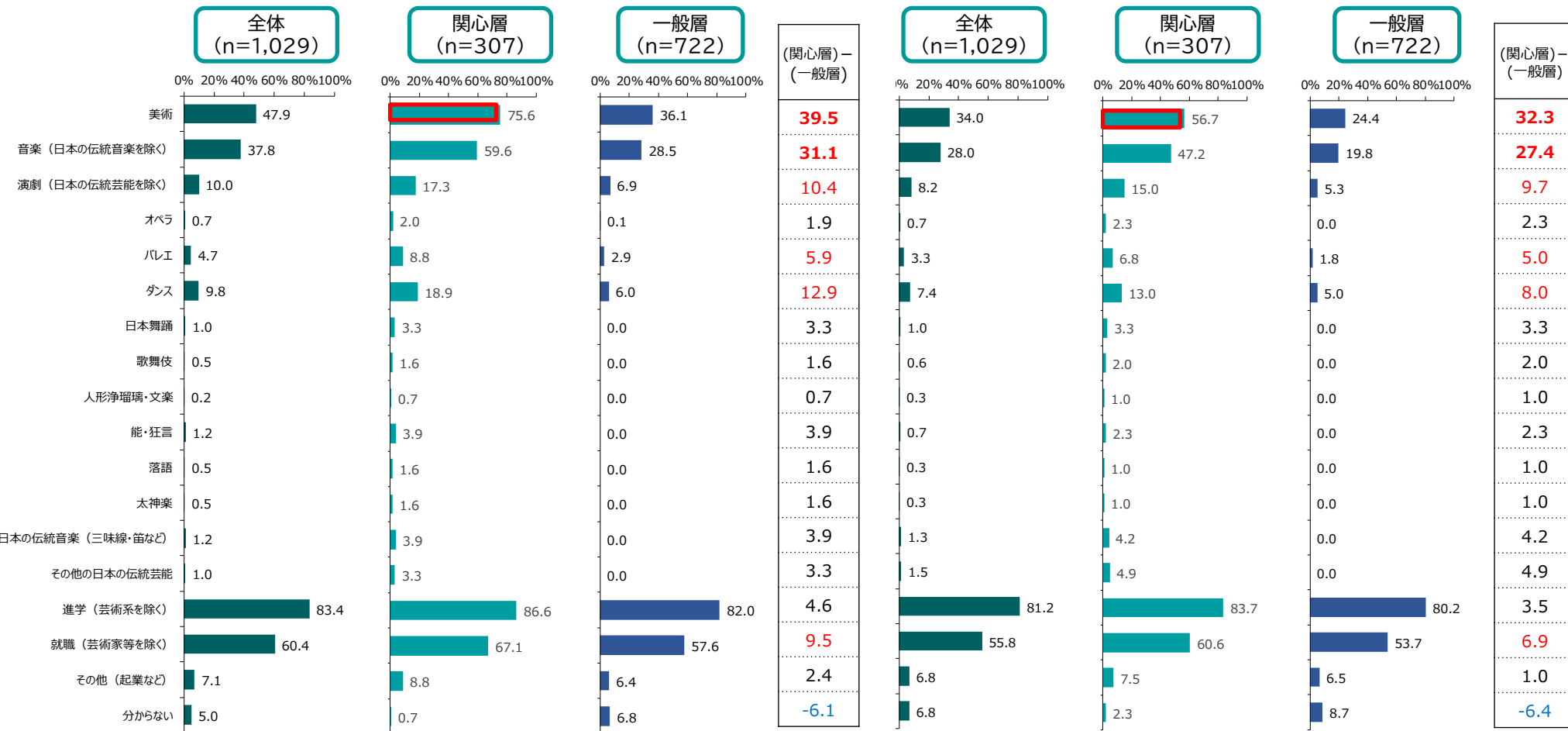


- ◆『1.生徒・学生が進路として選んだことのある分野』では、いずれの層も「進学（芸術系を除く）」が最も多く8割を超えている。次いで、関心層では「美術」が75.6%で他を大きく上回っている。
- ◆『2.生徒・学生から相談を受けたことがある分野』では、いずれの層も「進学（芸術系を除く）」が最も多く8割を超え、次いで「就職（芸術家等を除く）」が半数以上、「美術」、「音楽（日本の伝統音楽を除く）」が続く。関心層では「美術」（56.7%）と「音楽（日本の伝統音楽を除く）」（47.2%）が他を大きく上回っている。

SC5.あなたが関わった生徒・学生が進路として選んだことのある分野、あるいは相談を受けたことがある分野をそれぞれ選択してください。
※進路担当者もしくは進路相談に応じたことがある方のみ

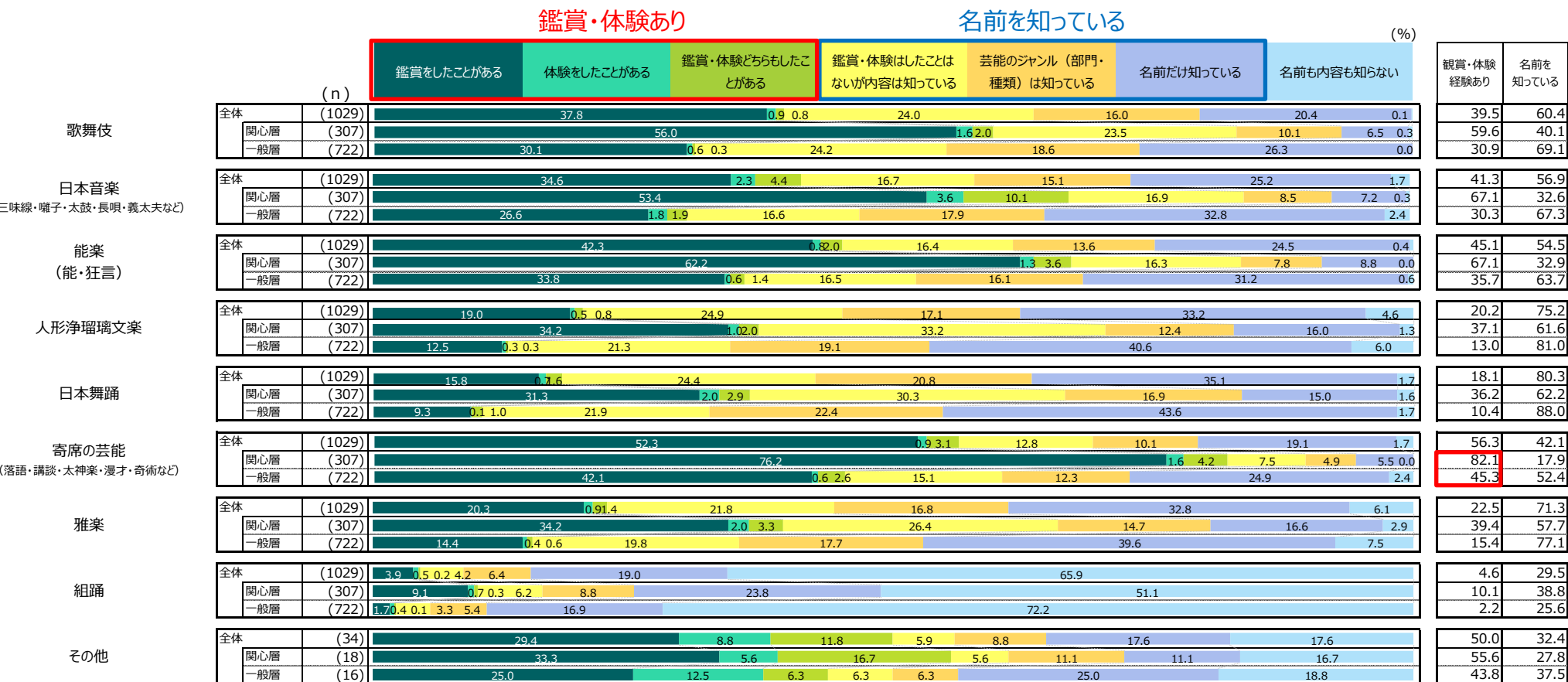
1. 生徒・学生が進路として選んだことのある分野

2. 生徒・学生から相談を受けたことのある分野



- ◆ 関心層については、組踊を除いた分野において90%以上が名前を知っており、鑑賞または体験をした割合が最も高いのは「寄席の芸能（落語・講談・太神楽・漫才・奇術など）」で8割以上となっている。一般層については、組踊を除いた分野において90%以上が名前を知っており、鑑賞または体験をした割合が最も高いのは「寄席の芸能（落語・講談・太神楽・漫才・奇術など）」で4割以上となっている。
- ◆ 全てにおいて、関心層が一般層よりも「鑑賞・体験あり」が高い。

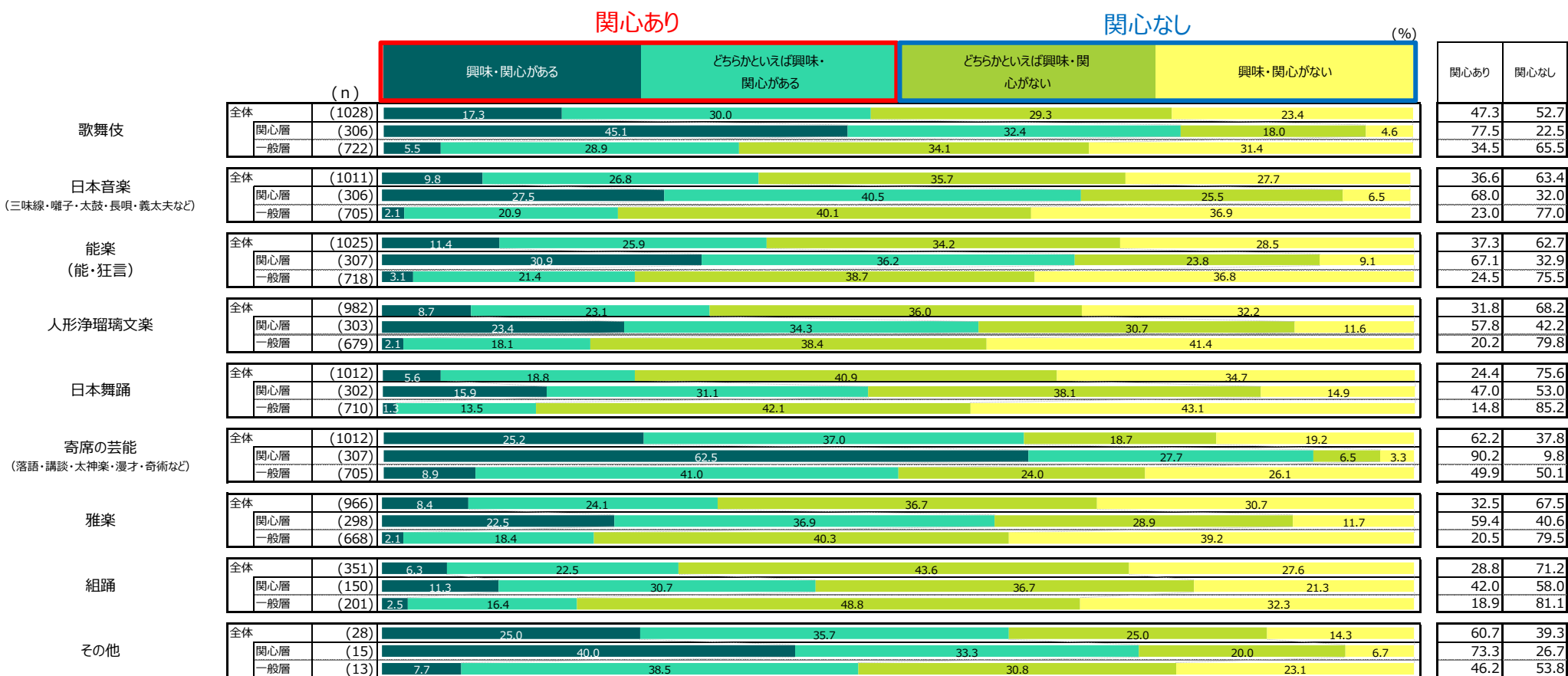
SC8.あなたは以下の伝統芸能を知っていますか。（単一回答）



◆ その他FA
 ・神楽（7件）・お琴（お箏）（5件）・和太鼓（5件）・英語落語・演舞・虎舞・詩吟・尺八
 ・新派・田楽・独楽・白拍子・披露・舞・平曲・民俗音楽・民舞・謡曲・立体怪談・郷土芸能

◆ 関心層において、「興味・関心がある」と回答した割合が最も高い分野は、寄席の芸能と6割以上である一方で、最も低い分野は組踊で11.3%となっている。「日本舞踊」と「組踊」以外で5割以上が「興味・関心がある」または「どちらかといえば興味・関心がある」と回答している。一般層において、「興味・関心がある」と回答した割合が最も高い分野は、寄席の芸能で8.9%となり、最も低い分野は日本舞踊で1.3%となっている。

SC9.あなたは以下の伝統芸能に興味・関心はありますか。(単一回答)



- ◆ 関心層では「職場見学／体験・インターンシップの実施」が69.7%で最も多く、次いで「進路に関する個別面談や進路相談」が68.7%、「卒業生や地域の方を招いた講話や交流」が66.1%と続き、いずれも上位項目は6割を超えている。一般層では「進路に関する個別面談や進路相談」(74.1%)が最も多く7割を超える。次いで「職場見学／体験・インターンシップの実施」が54.4%、「卒業生や地域の方を招いた講話や交流」が48.2%と続く。
- ◆ 関心層と一般層で比較すると、「地域文化や伝統芸能の観賞・交流」で20.7ポイント、「職業や業界についてのキャリアに関する授業」で19.9ポイントの差がみられる。関心層では、業界、文化を含めた体系的な進路学習を行っていることが窺える。

Q1.生徒・学生のキャリア形成に向けて、どのような取り組みをしていますか／していましたか。

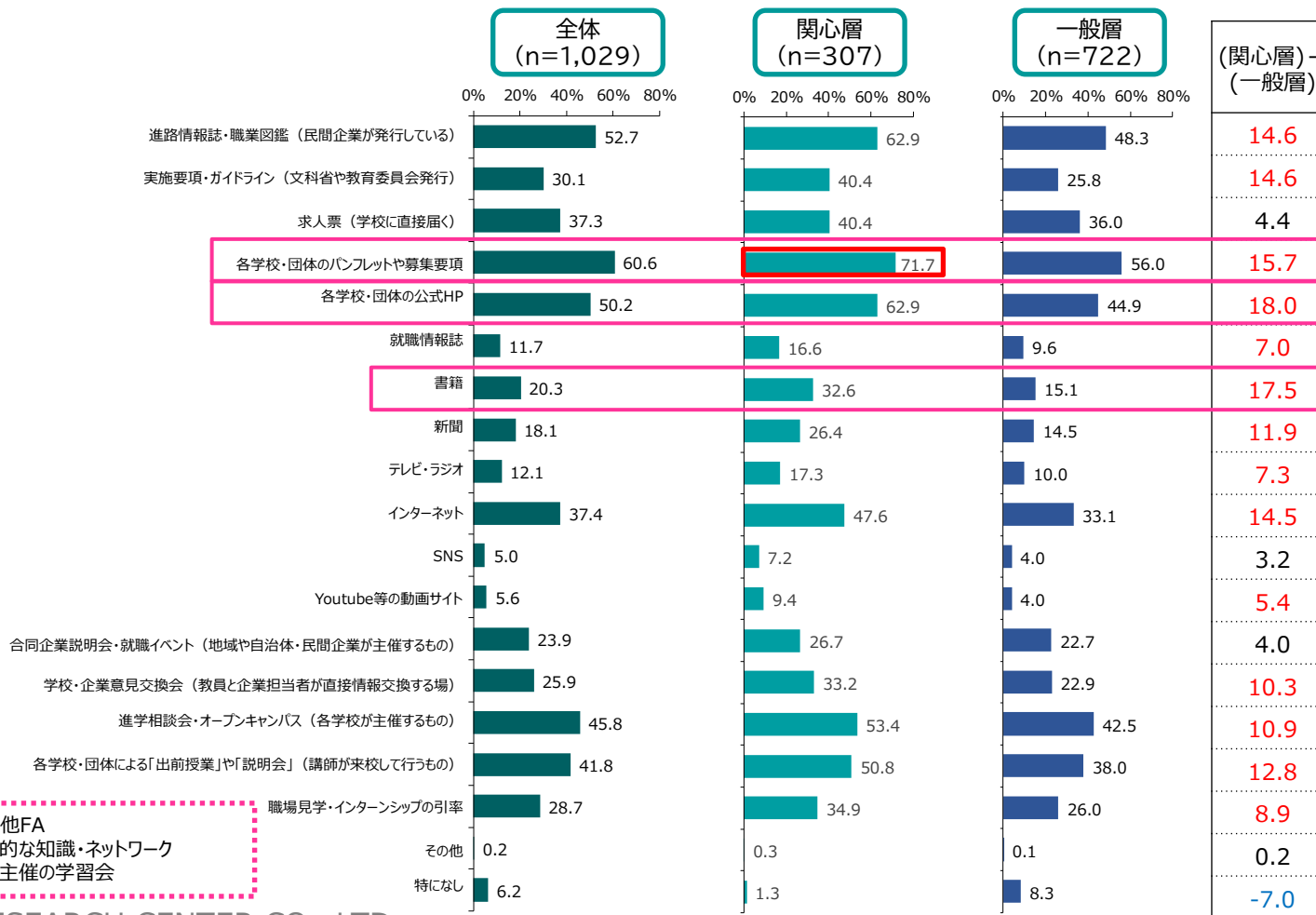
(複数回答)



- ◆いずれの層においても「各学校・団体のパンフレットや募集要項」が最も多く、関心層では7割を超える。
- ◆関心層と一般層で比較すると、「特になし」を除いたすべての選択肢で関心層の回答割合が高く、多様な資料・媒体を情報源としていることが分かる。また、「各学校・団体の公式HP」で18.0ポイント、「書籍」で17.5ポイント、「各学校・団体のパンフレットや募集要項」で15.7ポイントの差がみられ、関心層では、一般層よりも公式HPやパンフレット等の進路先が対外的に発信している情報を確認していることが窺える。

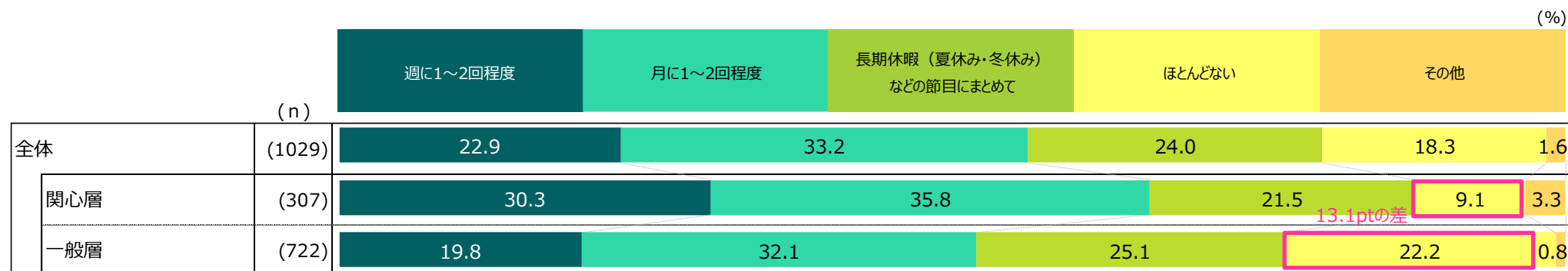
Q2.生徒・学生への進路指導や情報提供にあたり、主にどのような資料・媒体から情報を収集していますか／していましたか。

(複数回答)



◆いずれの層においても「月に1～2回程度」が最も多く3割以上となっている。関心層では「週に1～2回程度」（30.3%）、一般層では「長期休暇（夏休み・冬休み）などの節目にまとめて」（25.1%）がそれぞれ2位となっている。また、「ほとんどない」は関心層が9.1%を占めるのに対して、一般層は22.2%と13.1ポイントの差がみられる。

Q3.生徒・学生への進路指導や情報提供にあたり、情報収集を行う／行っていた頻度を教えてください。（単一回答）

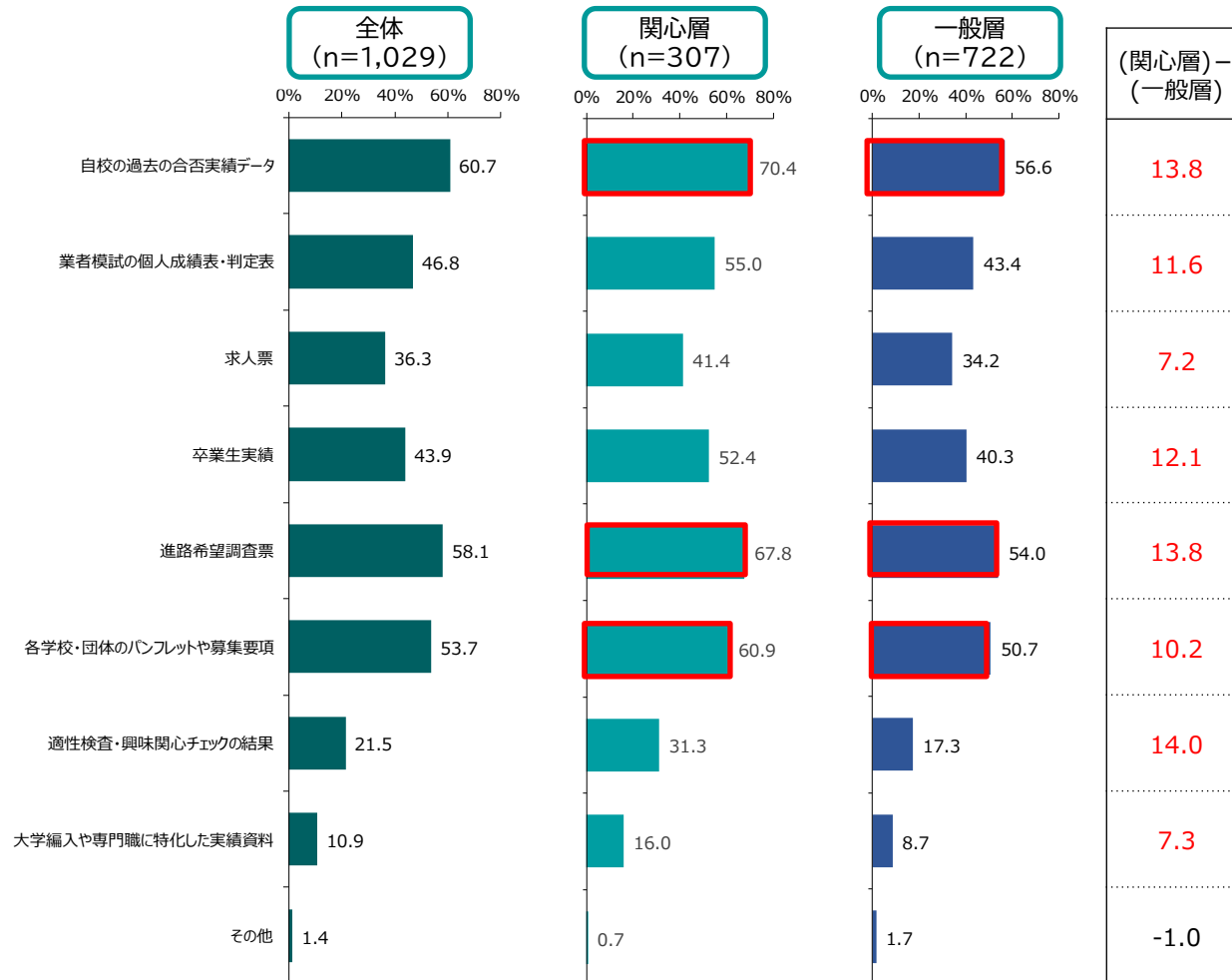


- ◆その他FA
 - ・必要に応じて（7件）
 - ・ほぼ毎日（3件）
 - ・学期に2～3回程度
 - ・学年により異なる
 - ・高校3年担当時のみ
 - ・時期による
 - ・生徒の進路希望に合わせて情報を集めるので、都度頻度が違う
 - ・不定期に頻繁に

- ◆ いずれの層においても上位3位までは「自校の過去の合否実績データ」「進路希望調査票」「各学校・団体のパンフレットや募集要項」で、5割以上となっている。
- ◆ 関心層と一般層で比較すると、「その他」を除いたすべての選択肢で関心層の回答割合が高く、広い情報源から収集した情報を生徒・学生に提供していることが分かる。

Q4. 収集した情報のうち、実際に進路指導や情報提供をする際に手元に準備している／準備していた資料を教えてください。

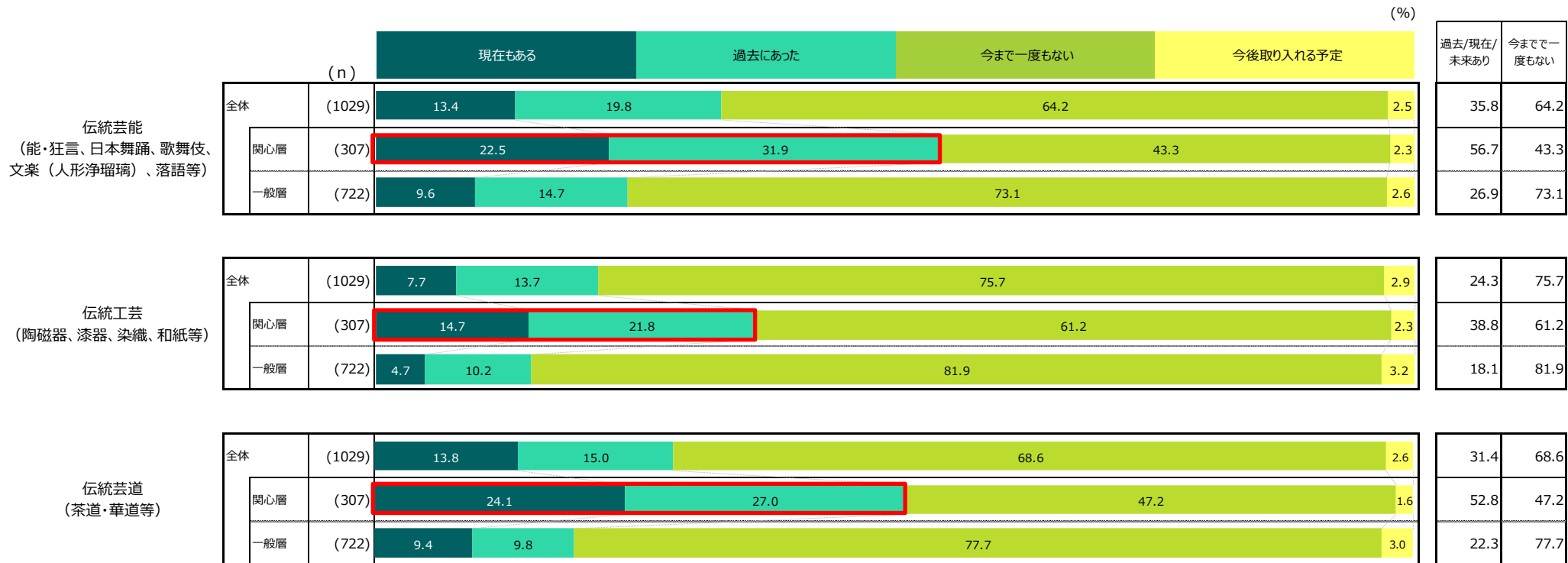
(複数回答)



- ◆ その他FA
 - ・タブレットでその都度検索
 - ・必要に応じた資料を用意している
 - ・各高校の募集要項
 - ・パソコン

- ◆ いずれの分野においても、関心層の「現在もある」「過去にあった」が一般層よりも高い割合となっている。また、「今後取り入れる予定」はどの分野でも大きな差異はみられない。
- ◆ 過去～現在～未来のいずれかに授業がある割合は、『伝統芸能』分野で関心層が半数以上、一般層で3割弱を占めており、関心層では普段の授業から伝統芸能に触れる機会が存在することが窺える。

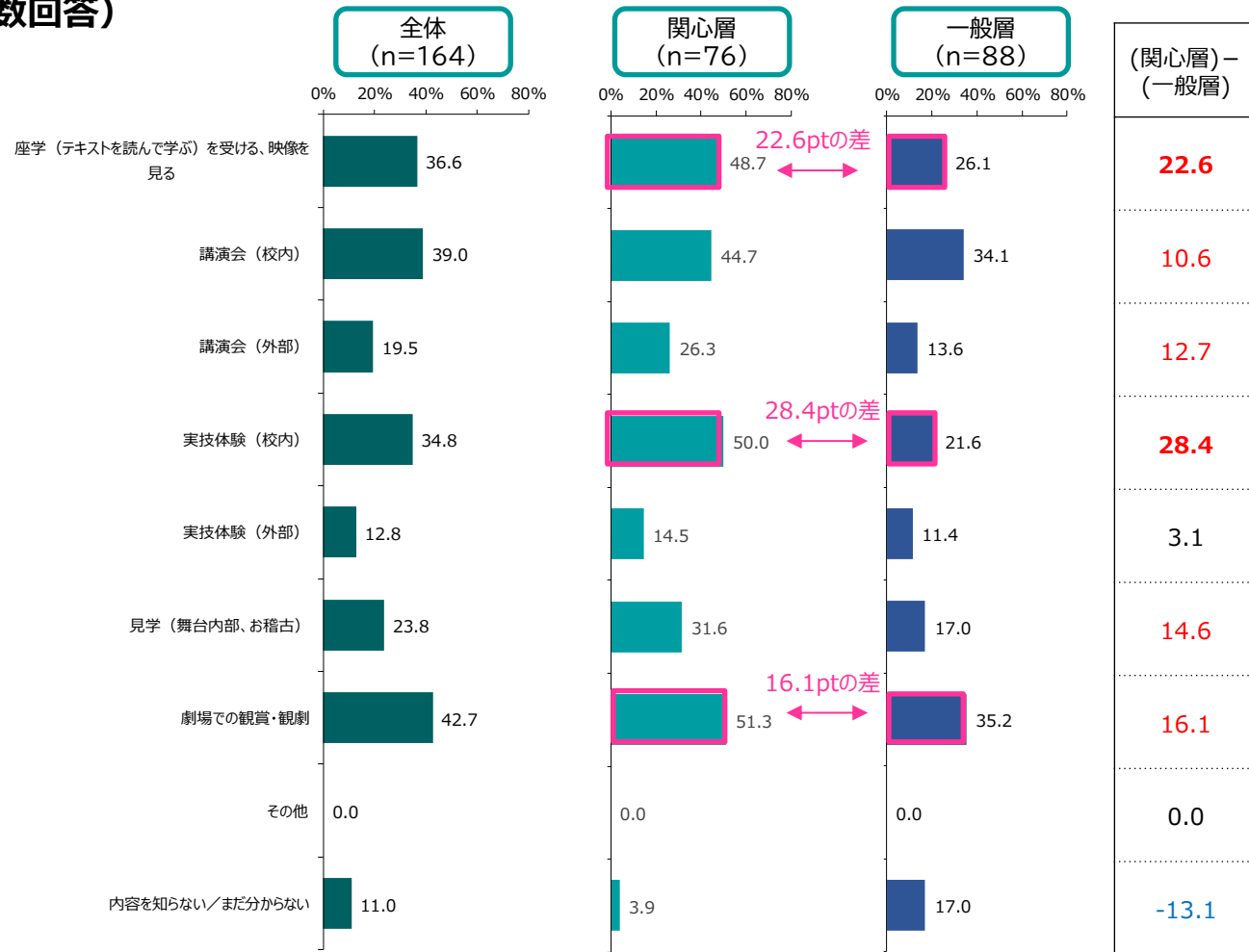
Q5.あなたのお勤め先の学校では伝統について学ぶ授業はありますか。※社会や公民の授業の中で一部触れるものは除き、伝統に特化した授業や課外活動を指します。（単一回答）



- ◆ いずれの層においても「劇場での観賞・観劇」が最も多い。また、2位は関心層が「実技体験（校内）」（50.0%）、一般層は「講演会（校内）」（34.1%）となっており、いずれも校内学習の割合が高く、関心層ではより生徒・学生の体験機会が取り入れられていることが窺える。
- ◆ 関心層と一般層の差が最も高いのは「実技体験（校内）」で28.4ポイントとなり、次いで「座学（テキストを読んで学ぶ）を受ける、映像を見る」で22.6ポイント、「劇場での観賞・観劇」が16.1ポイントの差が見られた。「内容を知らない／まだ分からない」を除いたすべての選択肢で関心層の割合が高い。

Q6.日本の伝統芸能について、どのような方法で学習をしていますか。※取り入れる予定で現状授業を行っていない場合は、今後の想定を回答してください。（複数回答）

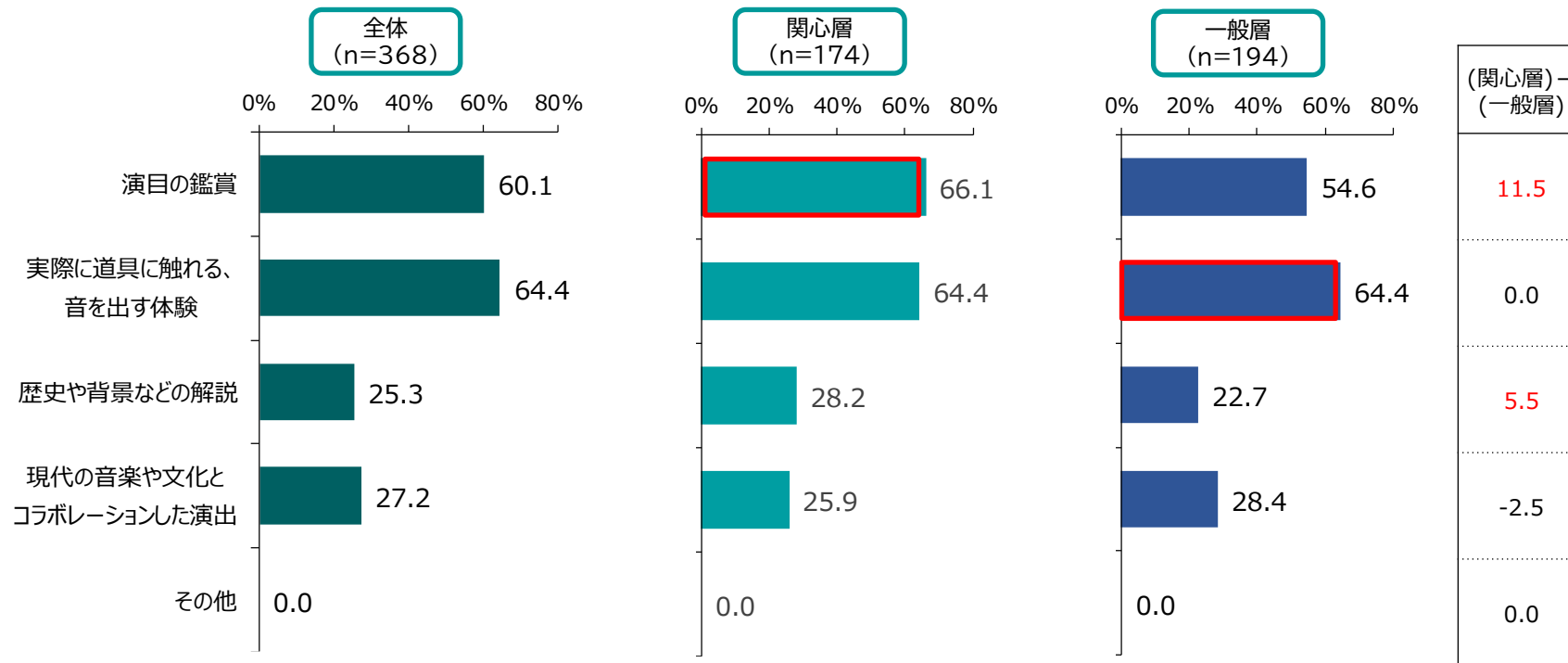
※伝統芸能について学ぶ授業が現在ある、または今後取り入れる予定があると回答した方のみ



◆ 関心層では、「演目の鑑賞」が66.1%で最も高く、次いで「実際に道具に触れる、音を出す体験」が64.1%、「歴史や背景などの解説」が28.2%と続く。一般層では、「実際に道具に触れる、音を出す体験」が64.4%で最も多く、次いで「演目の鑑賞」が54.6%、「現代の音楽や文化とコラボレーションした演出」が28.4%と続く。

Q7.日本の伝統芸能について、生徒・学生が最も興味関心を示すのはどのような要素だと考えますか。(複数回答)

※伝統芸能について学ぶ授業が現在ある、または過去あったと回答した方のみ



- ◆ 関心層では、「予算の確保が難しい」が61.1%で最も多く、次いで「授業時間の確保が難しい」が56.8%、「外部講師（実演家）との接点がない」が46.4%と続く。一般層では、「授業時間の確保が難しい」が47.3%で最も多く、次いで「予算の確保が難しい」が42.8%、「専門知識がなく、指導ができない」が40.5%と続く。関心層と一般層のどちらも予算と授業時間の確保といった学校内部の要因が障壁となっているが、関心層における外部講師との接点や、一般層への専門知識の不足といった課題も見られた。
- ◆ 関心層と一般層で比較すると、「予算の確保が難しい」で18.3ポイント、「道具（楽器や衣装など）を揃えることが難しい」で16.1ポイントの差が見られた。

Q8.日本の伝統文化について、学ぶ授業がない理由としてどのようなことが当てはまりますか。（複数回答）

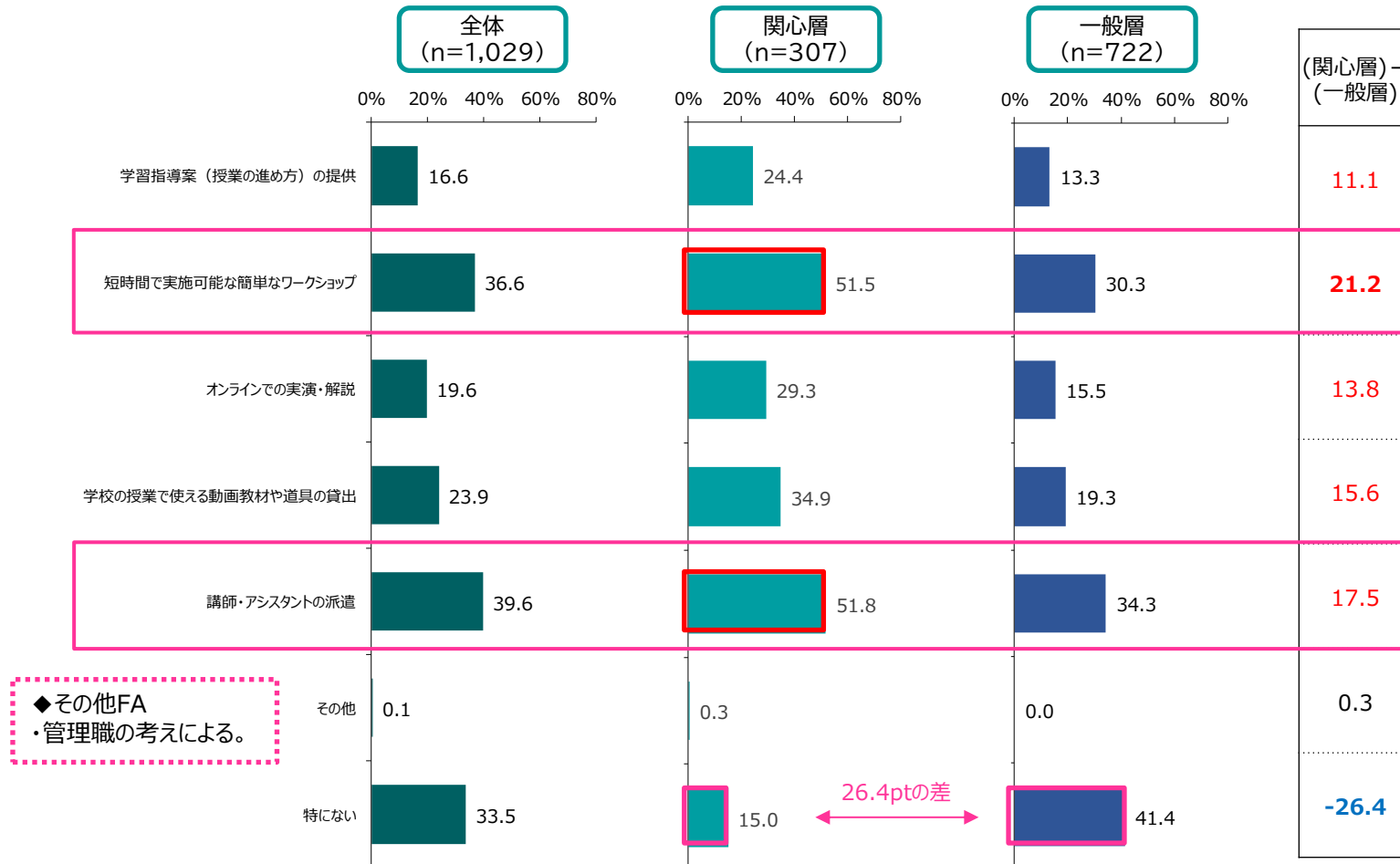
※Q5で伝統文化について
現在学ぶ授業がないと回答した方のみ



◆その他FA
 ・教員の知識が不足している
 ・専門的に学びたい生徒、そうではない生徒がいるから。
 ・管理職の意識、興味がない
 ・農業高校のため芸術に特化した指導を行う素地がない
 ・教育課程にない

◆ 関心層では「講師・アシスタントの派遣」、「短時間で実施可能な簡単なワークショップ」が半数を超える。一般層と比較すると、「短時間で実施可能な簡単なワークショップ」では21.2ポイント、「講師・アシスタントの派遣」では17.5ポイントの差が見られる。一般層では「特にない」が41.4%と最も多く、関心層と比較して26.4ポイントの差がみられる。

Q9. 伝統芸能に関わる団体から以下の支援を受けたとして、協力したいと思えるものはありますか。（複数回答）



◆いずれの層においても「全く検討したことがない」が最も多く、一般層では約9割を占める。全体で見ると8.8%が1回以上提示したことがあり、伝統芸能を進路として生徒へ提示する教員が一定数存在することが窺える。

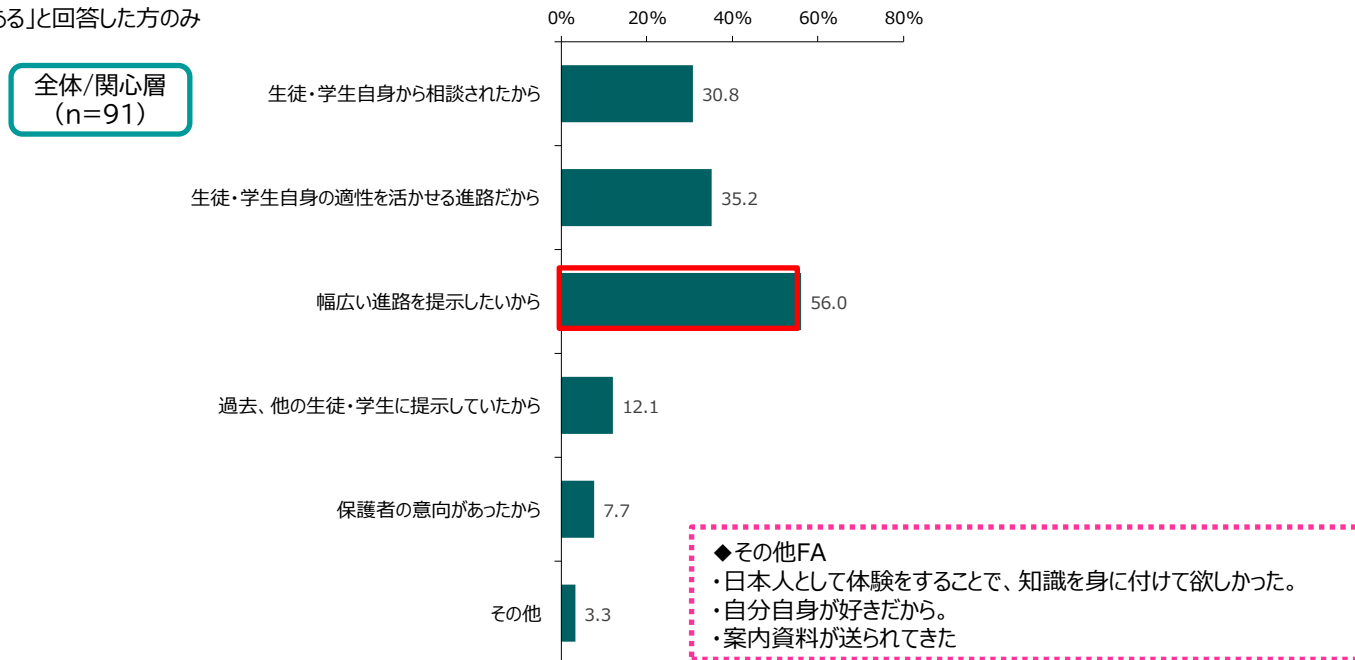
Q10.これまでの進路指導において、「伝統芸能」を選択肢として提示したことはありますか。(単一回答)



◆「伝統芸能」を進路の選択肢として提示した主な理由として、「幅広い進路を提示したいから」が56.0%で最も多く、次いで「生徒・学生自身の適性を活かせる進路だから」が35.2%、「生徒・学生自身から相談されたから」が30.8%と続く。

Q11.「伝統芸能」を進路の選択肢として提示した主な理由を教えてください。(複数回答)

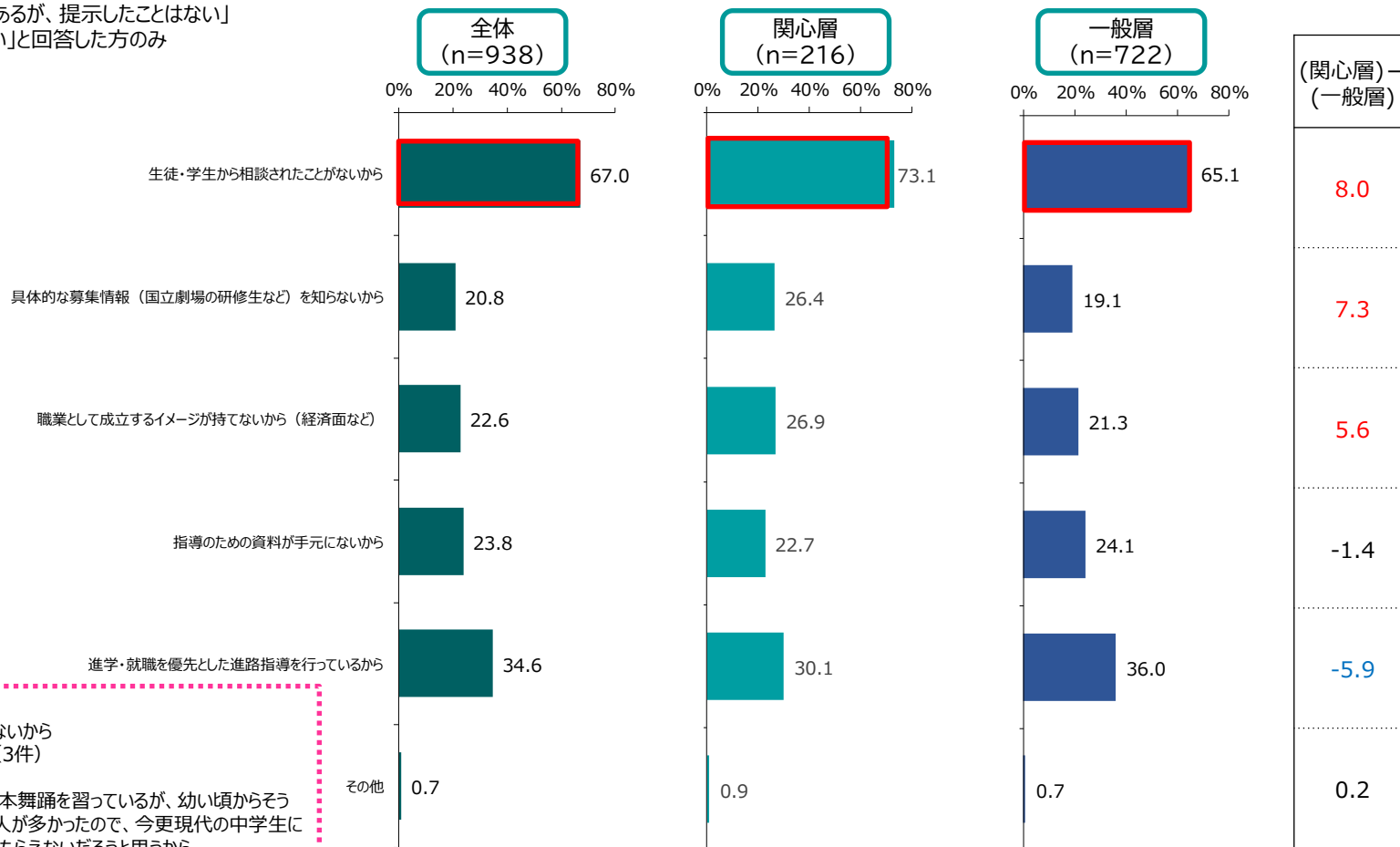
※Q10で「何度もある」「1~2回はある」と回答した方のみ



◆いずれの層においても上位2位までは「生徒・学生から相談されたことがないから」「進学・就職を優先とした進路指導を行っているから」となっている。3位について、関心層は「職業として成立するイメージが持てないから（経済面など）」（26.9%）、一般層が「指導のための資料が手元にないから」（24.1%）となっている。

Q12. 「伝統芸能」を進路の選択肢として提示をしたことがない主な理由を教えてください。（複数回答）

※Q10で「検討したことはあるが、提示したことはない」「全く検討したことがない」と回答した方のみ

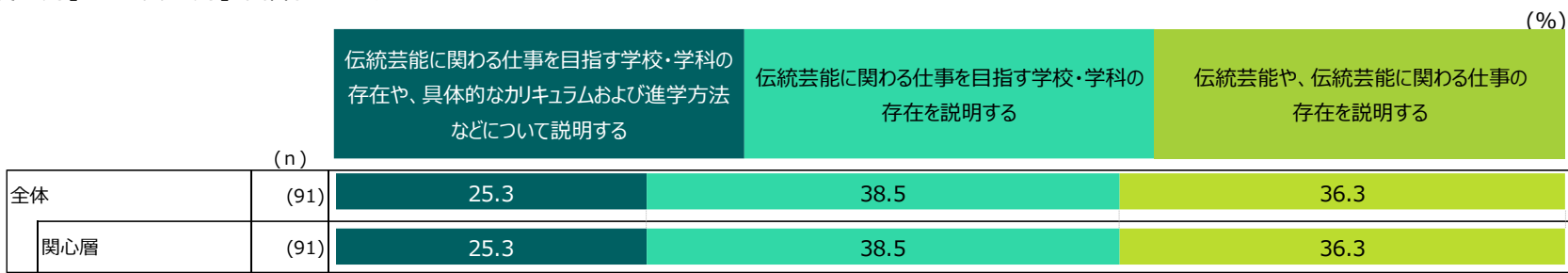


- ◆ その他FA
- ・過去の実績や参考がないから
 - ・専門外の学校だから（3件）
 - ・思い至らなかった
 - ・自分は小さい頃から日本舞踊を習っているが、幼い頃からそういったものに興味のない人が多かったので、今更現代の中学生に紹介しても興味を持ってもらえないだろうと思うから。
 - ・需要がない

◆ 伝統芸能の進路についての説明方法として、「伝統芸能に関わる仕事を目指す学校・学科の存在を説明する」が38.5%で最も多く、次いで「伝統芸能や、伝統芸能に関わる仕事の存在を説明する」が36.3%と続いている。「伝統芸能に関わる仕事を目指す学校・学科の存在や、具体的なカリキュラムおよび進学方法などについて説明する」は25.3%となっている。

Q13. 伝統芸能の進路について、どのような説明をしていますか。選択肢に最も近いものをお答えください。（単一回答）

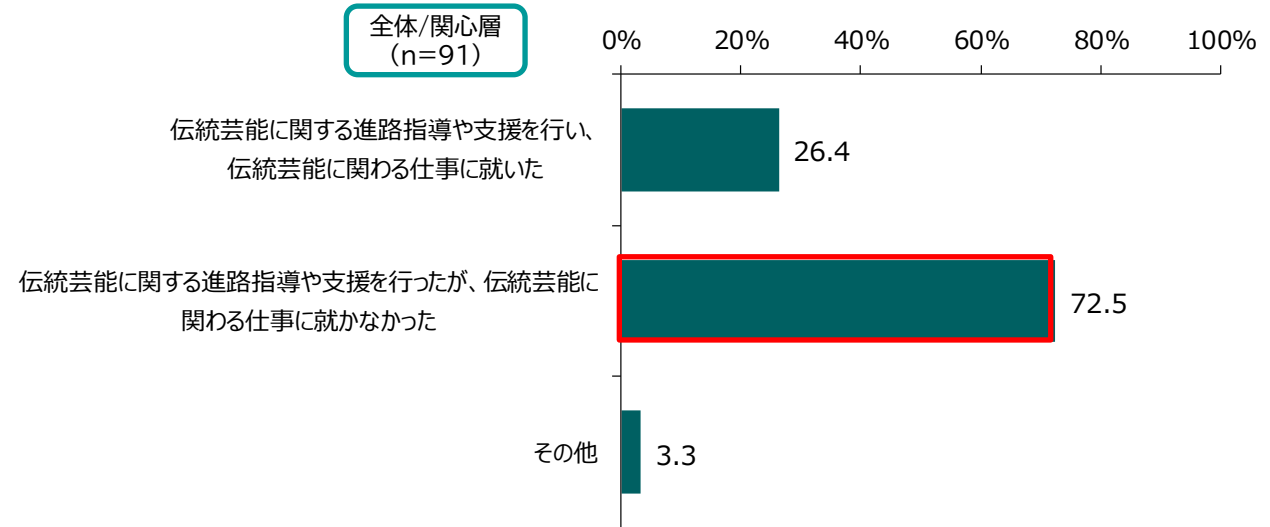
※ Q10で「何度もある」「1～2回はある」と回答した方のみ



◆ これまでの進路指導の中で「伝統芸能」に関わる仕事に就いた方の有無について、「伝統芸能に関する進路指導や支援を行ったが、伝統芸能に関わる仕事に就かなかった」が72.5%で最も多い。「伝統芸能に関する進路指導や支援を行い、伝統芸能に関わる仕事に就いた」は26.4%となっている。

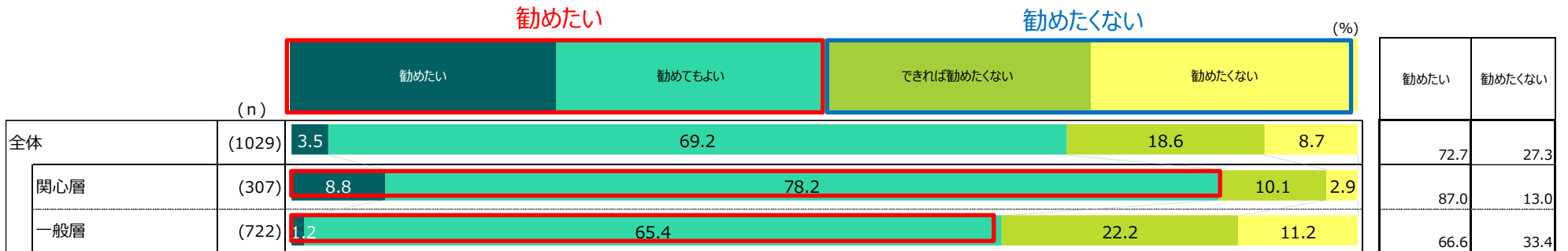
Q14. これまでの進路指導の中で、「伝統芸能」に関わる仕事に就いた方はいますか。（複数回答）

※ Q10で「何度もある」「1～2回はある」と回答した方のみ



- ◆いずれの層においても「勧めてもよい」が最も多く、次いで「できれば勧めたくない」が続く。
- ◆「勧めたい」（「勧めたい」+「勧めてもよい」の回答合計）とする割合は、関心層では87.0%なのに対し、一般層は66.6%と20.4ポイントの差がみられる。

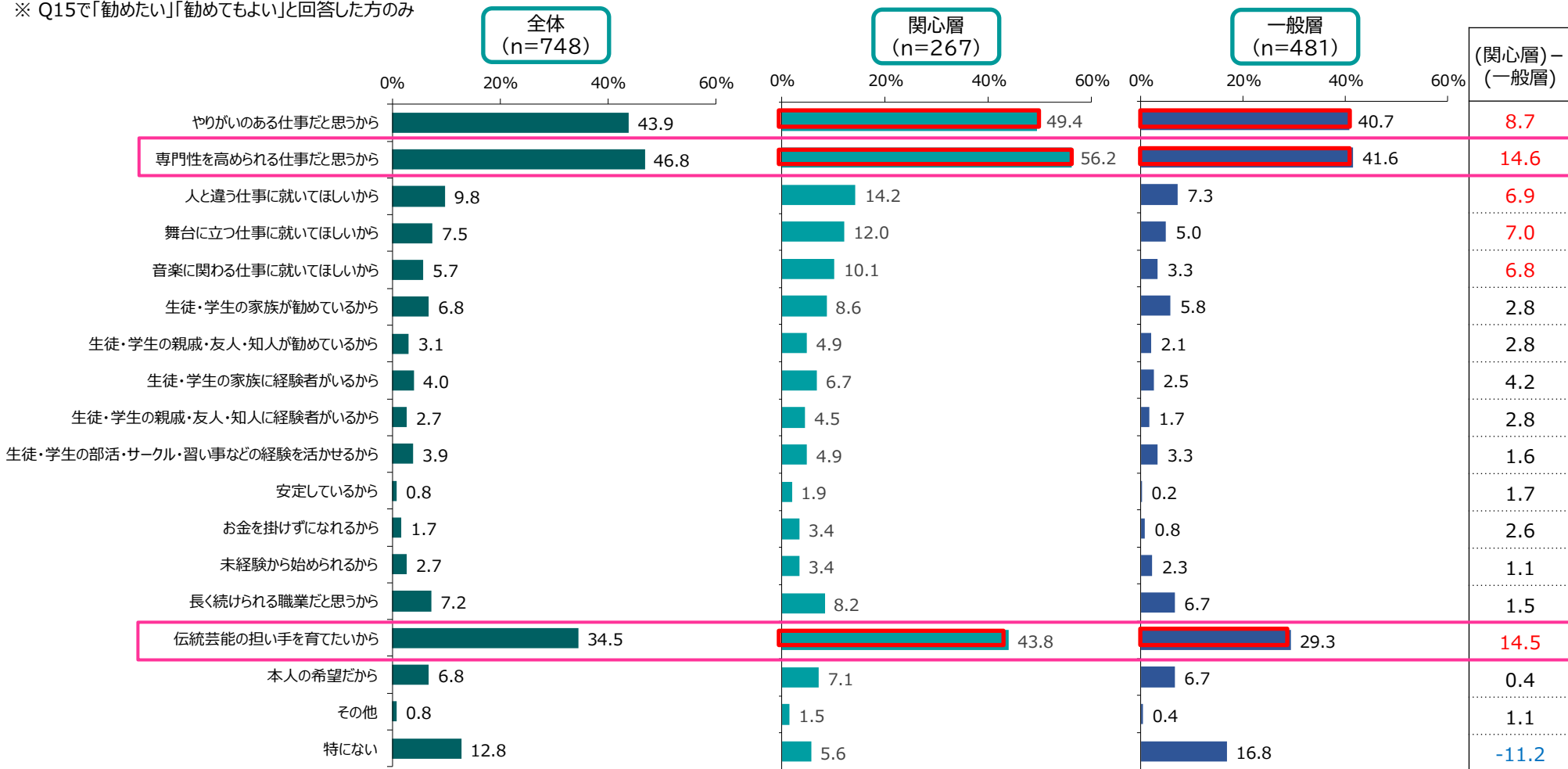
Q15.あなたは、生徒・学生が伝統芸能の職業に就くことを（先生の立場で）勧めたいと思いますか。（単一回答）



- ◆ いずれの層においても上位3位までは「専門性を高められる仕事だと思うから」「やりがいのある仕事だと思うから」「伝統芸能の担い手を育てたいから」となっている。「専門性を高められる仕事だと思うから」「やりがいのある仕事だと思うから」についてはいずれの層でも4割以上が回答している。
- ◆ 関心層と一般層で比較すると、「専門性を高められる仕事だと思うから」で14.6ポイント、「やりがいのある仕事だと思うから」で14.5ポイントの差が見られた。

Q16.生徒・学生に伝統芸能の職業に就くことを（先生の立場で）勧めてもよいと考える理由は何ですか。（複数回答）

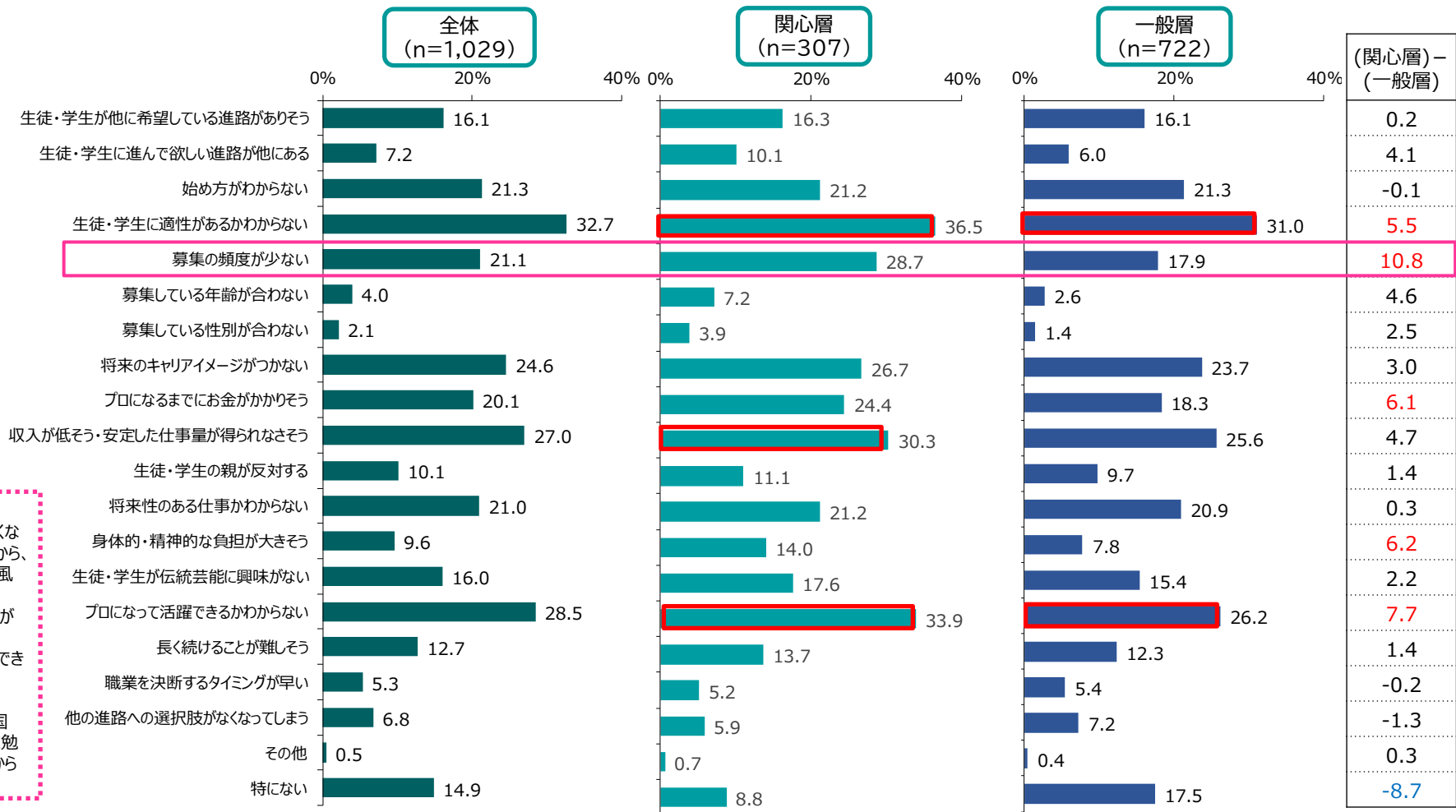
※ Q15で「勧めたい」「勧めてもよい」と回答した方のみ



- ◆いずれの層においても上位3位までは「生徒・学生に適性があるかわからない」「プロになって活躍できるかわからない」「収入が低そう・安定した仕事量が得られなさそう」となっている。
- ◆関心層と一般層で比較すると、「募集の頻度が少ない」でのみ10ポイント以上の差があり、関心層と一般層の間で、伝統芸能の職業に就くことに対する不安要素に、大きな差がないことが窺える。

Q17.生徒・学生が伝統芸能の職業に就くことについて、あなたが不安に感じることは何ですか。

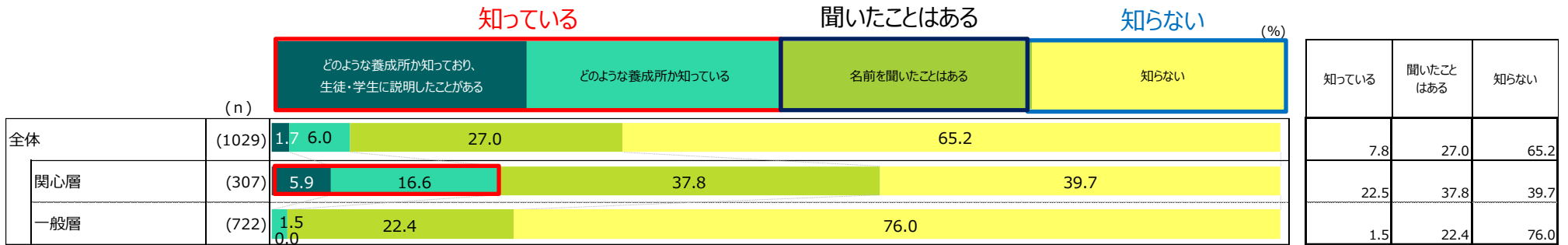
(複数回答)



◆その他FA
 ・今の学生は、忍耐強くないし、権利意識も高いから、伝統文化継承組織の風土に馴染めなさそう
 ・勧められるだけの知識がないから。
 ・有名な一家しか活躍できない気がする
 ・コネがふといか？
 ・専門学校なのでその国家資格を習得する為に勉強し、その道に進む姿から他の選択肢はない

- ◆いずれの層においても「知らない」が最も多く、次いで「名前を聞いたことはある」、「どのような養成所か知っている」となっている。
- ◆「知っている」（「どのような養成所か知っており、生徒・学生に説明したことがある」+「どのような養成所か知っている」の回答合計）割合は、関心層が22.5%なのに対して一般層は1.5%となっており、「知らない」の割合は関心層で39.7%に対し一般層で76.0%となっている。関心層と一般層の間には、内容理解を伴う認知に加え、表層的な名称認知の段階においても差が存在することが窺える。

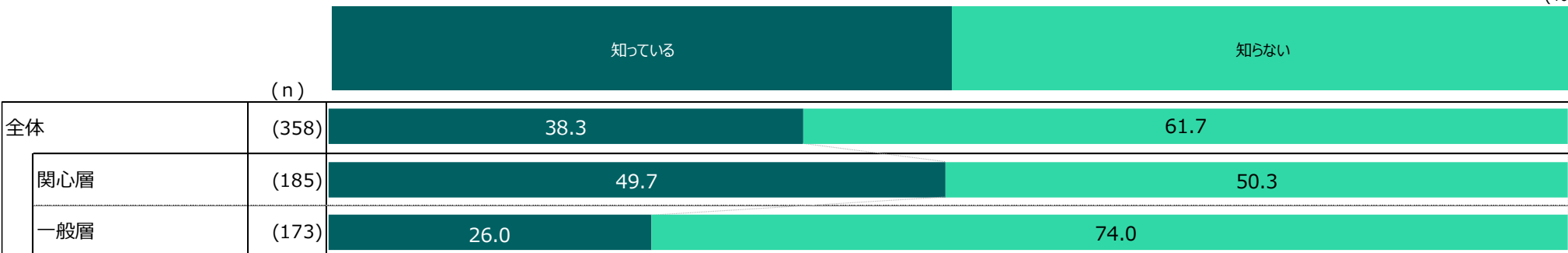
Q18.あなたは、国立劇場養成所を知っていますか。（単一回答） ※国立劇場養成所：伝統芸能の新たな担い手を養成する場所



- ◆「知っている」と回答した割合は、関心層では49.7%、一般層では26.0%となっており、関心層の方が一般の人で経験が無くても国立劇場養成所の研修生に応募ができることを認知している割合が高い。

Q20.あなたは、一般の人で経験が無くても国立劇場養成所の研修生に応募ができることを知っていますか。（単一回答） ※国立劇場養成所：伝統芸能の新たな担い手を養成する場所

※ Q18で「どのような養成所か知っており、生徒・学生に説明したことがある」「どのような養成所か知っている」「名前を聞いたことはある」と回答した方のみ

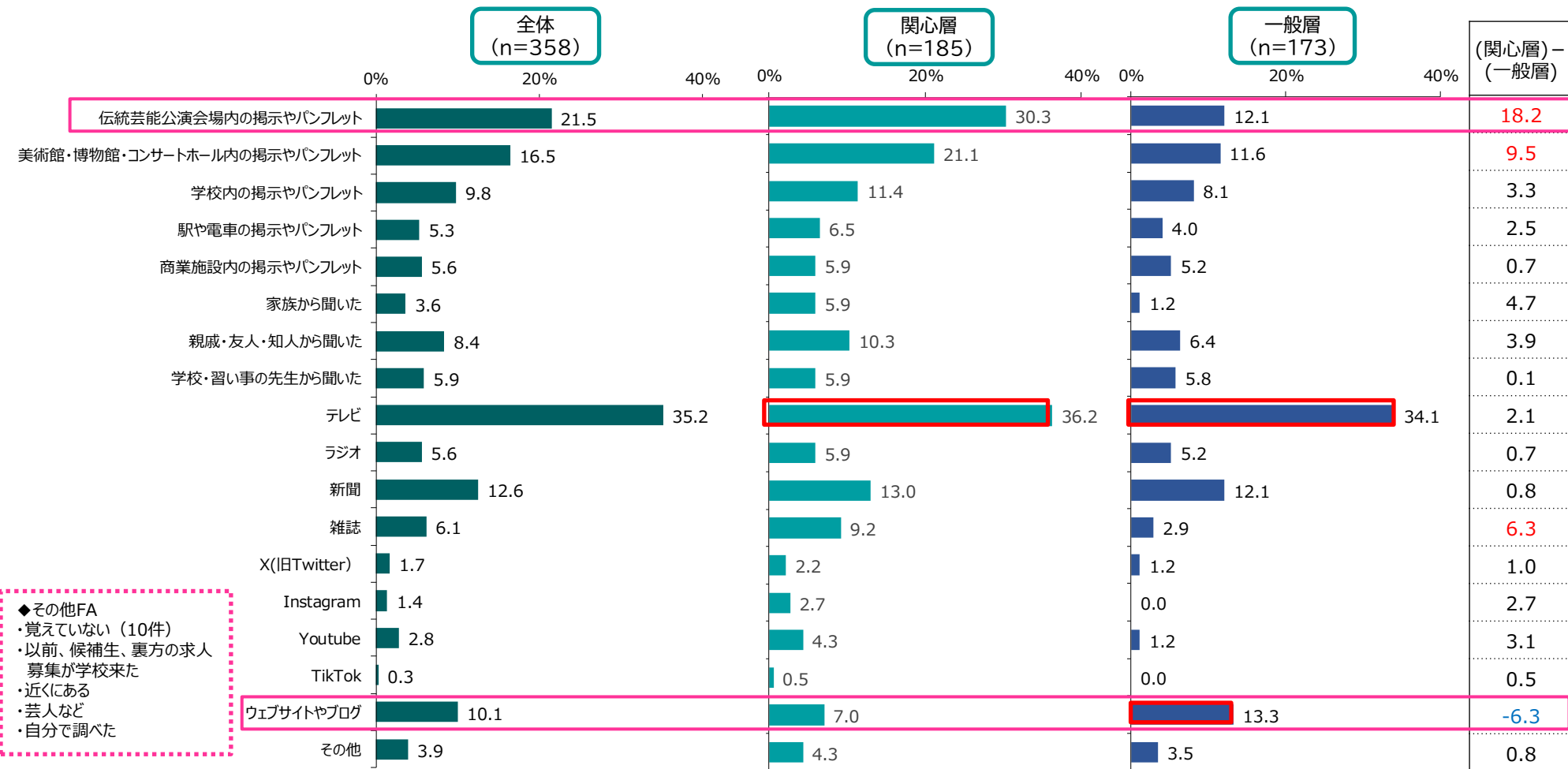


◆養成所の認知経路について、いずれの層においても「テレビ」が最も多く3割以上となっている。関心層は、次いで「伝統芸能公演会場内の掲示やパンフレット」が30.3%、「美術館・博物館・コンサートホール内の掲示やパンフレット」が21.1%と続く。一般層は「ウェブサイトやブログ」が13.3%、「伝統芸能公演会場内の掲示やパンフレット」と「新聞」が12.1%と同率で続く。

◆関心層と一般層で比較すると、「伝統芸能公演会場内の掲示やパンフレット」が18.2ポイントと差が見られ、「ウェブサイトやブログ」のみ一般層の方が関心層よりも割合が高い。

Q19.あなたは、国立劇場養成所を何で知りましたか。(複数回答)

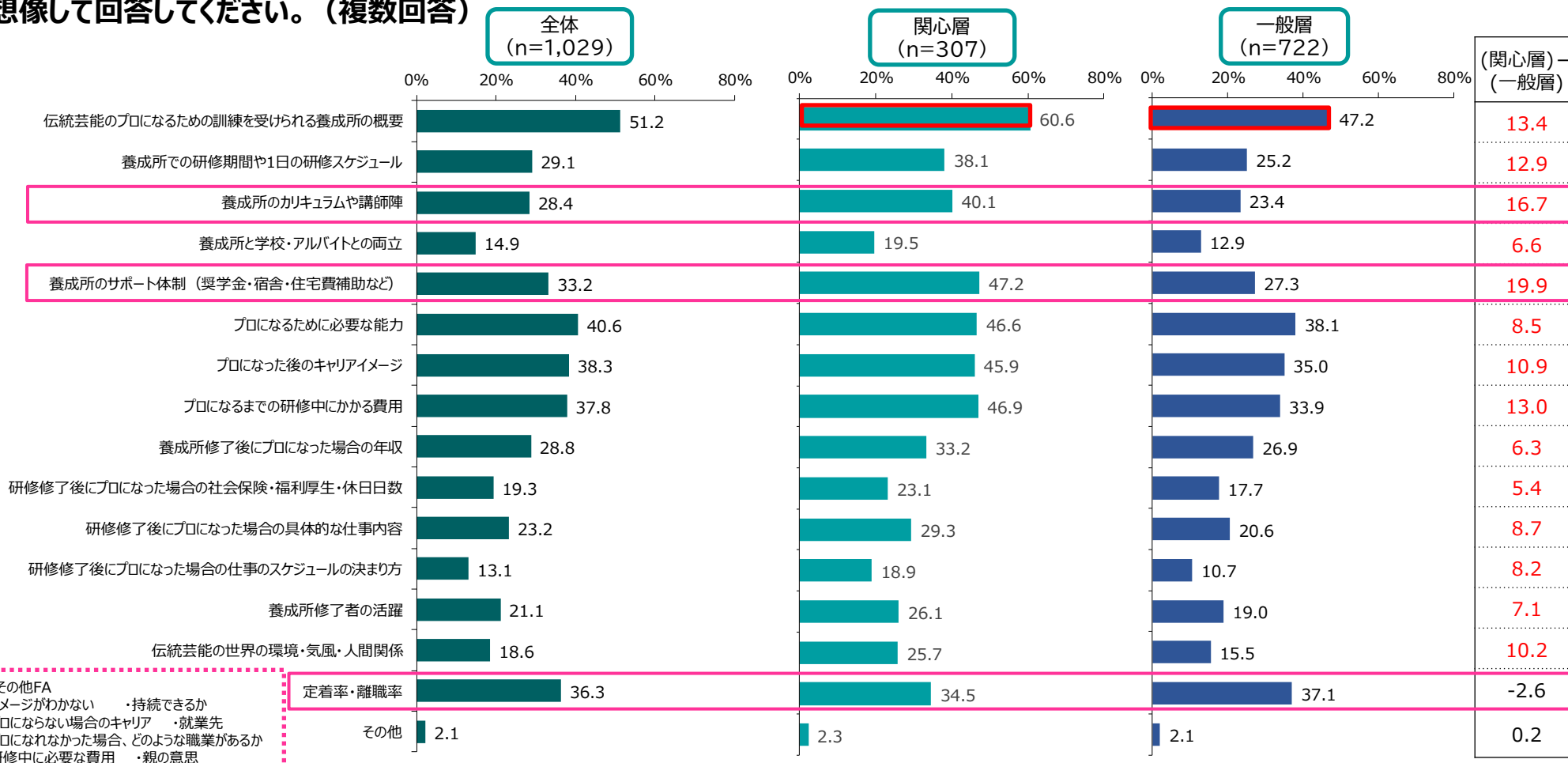
※ Q18で「どのような養成所か知っており」「どのような養成所か知っている」「名前を聞いたことはある」と回答した方のみ



◆その他FA
 ・覚えていない(10件)
 ・以前、候補生、裏方の求人募集が学校来た
 ・近くにある
 ・芸人など
 ・自分で調べた

- ◆ いずれの層においても「伝統芸能のプロになるための訓練を受けられる養成所の概要」が最も多い。関心層は、次いで「養成所のサポート体制（奨学金・宿舍・住宅費補助など）」、「プロになるまでの研修中にかかる費用」が続く。一般層は次いで「プロになるために必要な能力」、「定着率・離職率」が続く。
- ◆ 関心層と一般層で比較すると、「養成所のサポート体制（奨学金・宿舍・住宅費補助など）」で19.9ポイント、「養成所のカリキュラムや講師陣」が16.7ポイントと差が見られ、「定着率・離職率」のみ一般層の方が関心層よりも割合が高い。関心層では、一般層よりも生徒が養成所で受ける待遇面を考慮することが窺える。

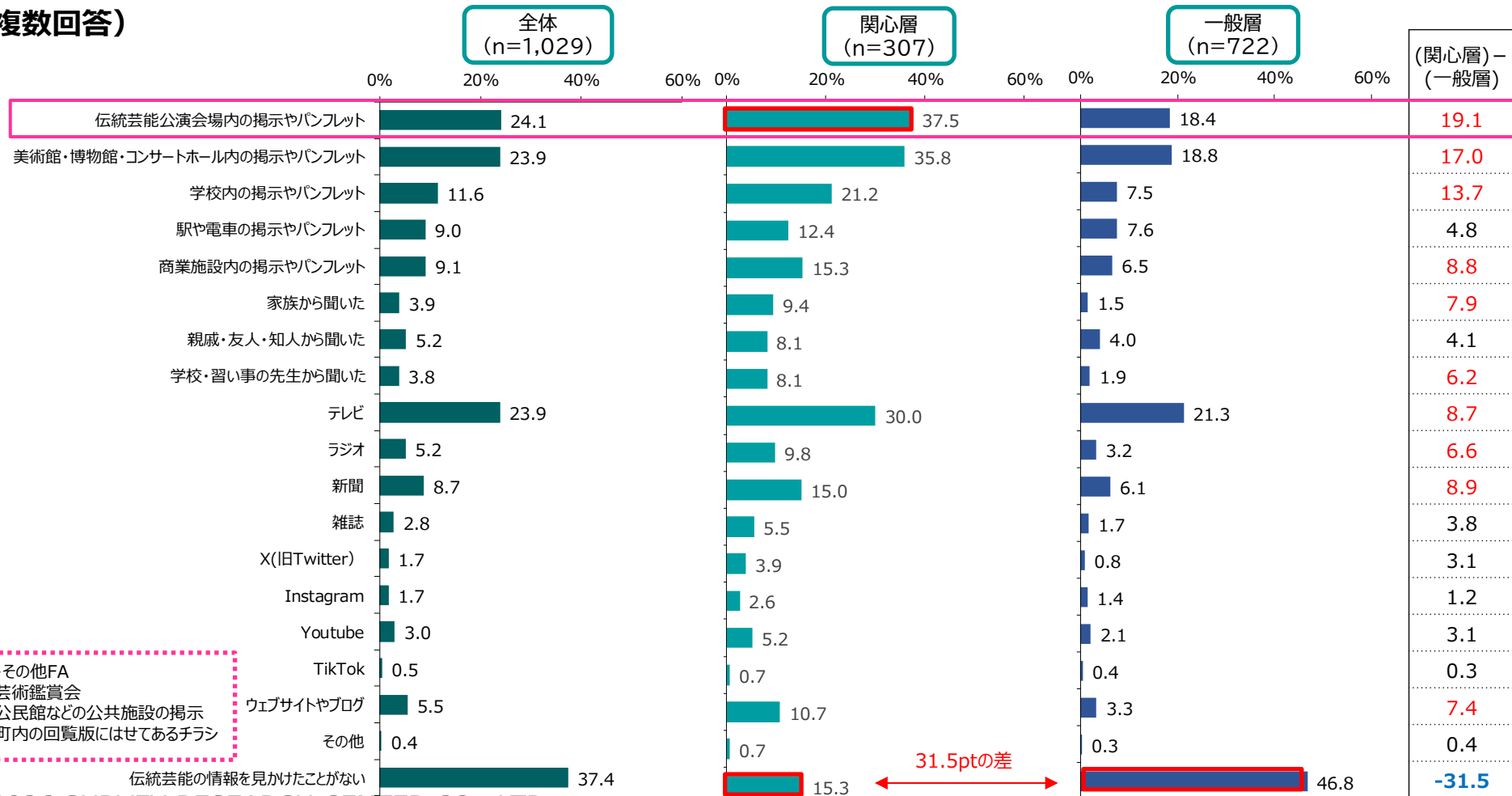
Q21.あなたが伝統芸能を生徒・学生の職業として考える上で知りたい情報は何か。※職業として考えていない場合は、考える場合を想像して回答してください。（複数回答）



◆ 関心層は「伝統芸能公演会場内の掲示やパンフレット」が最も多く、次いで「美術館・博物館・コンサートホール内の掲示やパンフレット」、「テレビ」が続く。一般層は「伝統芸能の情報を見かけたことがない」が最も多く、関心層と比べると31.5ポイントの差がある。次いで「テレビ」、「美術館・博物館・コンサートホール内の掲示やパンフレット」が続く。いずれの層も、テレビや新聞といった従来型マスメディアと掲示物やパンフレットからの情報を中心として伝統芸能に関する情報を得ていることが窺える。

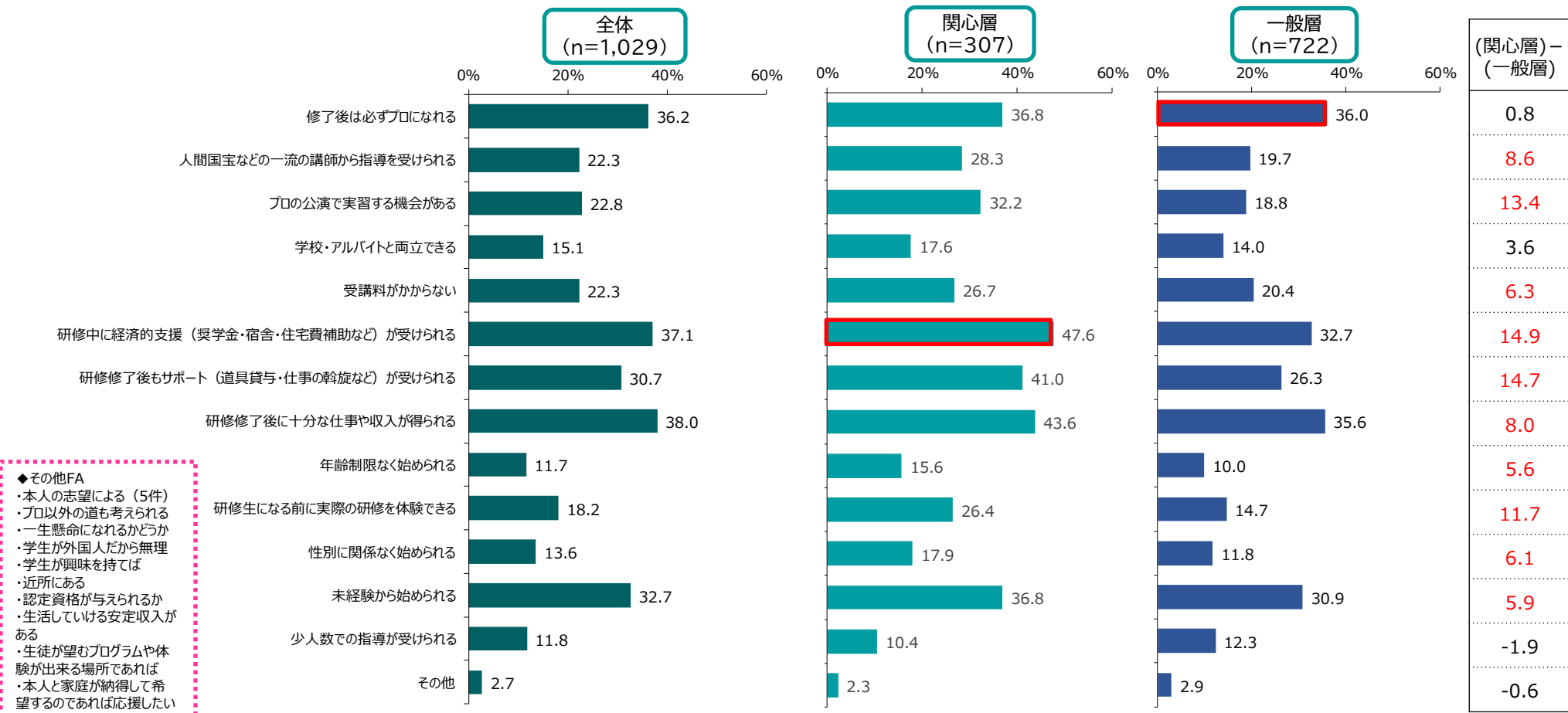
Q22.あなたが伝統芸能の公演や体験、募集の情報を目にしたことがある、耳にしたことがある場面を選択してください。

(複数回答)



◆ 関心層は「研修中に経済的支援（奨学金・宿舍・住宅費補助など）が受けられる」が最も多く、次いで「研修修了後に十分な仕事や収入が得られる」、「研修修了後もサポート（道具貸与・仕事の斡旋など）が受けられる」が続き、いずれも4割を超えている。一般層は「修了後は必ずプロになれる」が最も多く、次いで「研修修了後に十分な仕事や収入が得られる」、「研修中に経済的支援（奨学金・宿舍・住宅費補助など）が受けられる」が続く。

Q23.あなたは、伝統芸能を学ぶ養成所がどのようなところであれば生徒・学生を通わせたいと思いますか。あてはまるものを全て選択してください。※職業として考えていない場合は、考える場合を想像して回答してください。（複数回答）



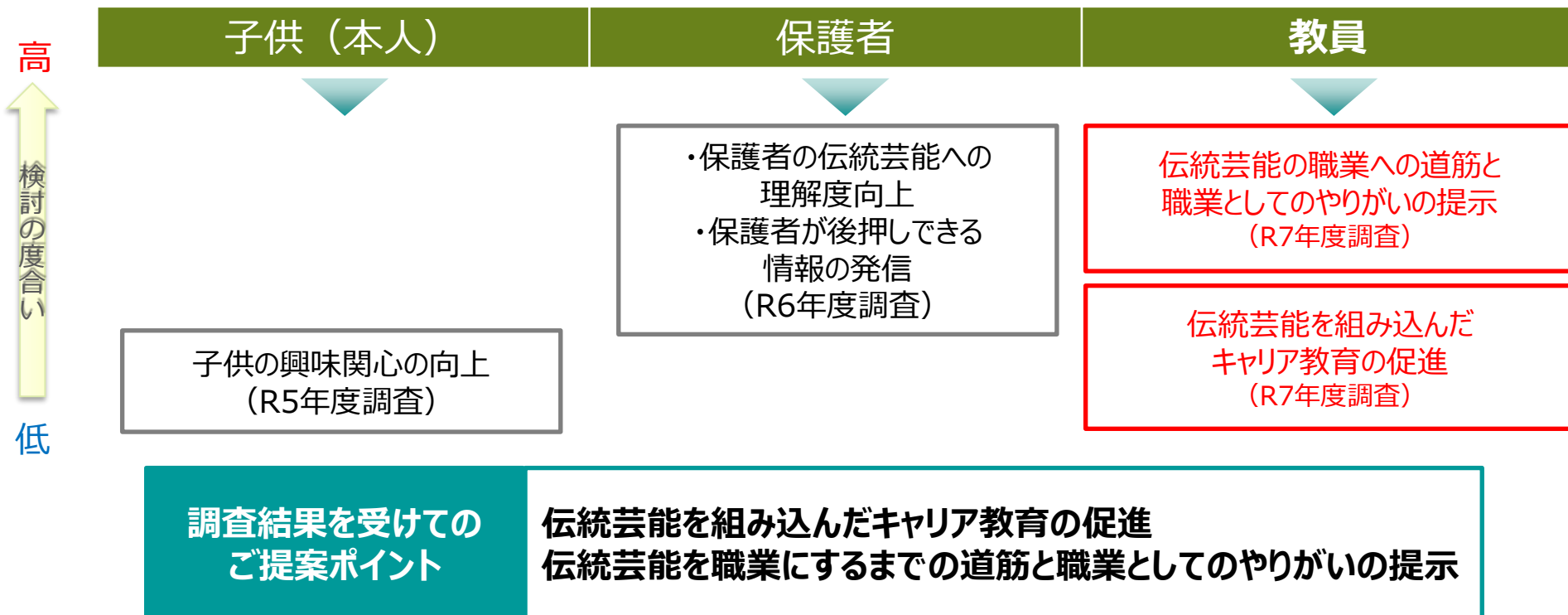
◆その他FA
 ・本人の志望による（5件）
 ・プロ以外の道も考えられる
 ・一生懸命になれるかどうか
 ・学生が外国人だから無理
 ・学生が興味を持てば
 ・近所にある
 ・認定資格が与えられるか
 ・生活していける安定収入がある
 ・生徒が望むプログラムや体験が出来る場所であれば
 ・本人と家庭が納得して希望するのであれば応援したい

3. 今後に向けたご提案

【ご提案にあたっての考え方】

伝統芸能の進路について、伝統芸能のやりがいやその専門性から、教員の関心層・一般層問わず、生徒・学生に対して伝統芸能への進路を「勧めてもよい」という意向が高い。そして、関心層の中でも実際に提示した場合と検討のみの場合の違いや国立劇場養成所の認知に差が存在するため、切り分けて見る必要がある。

全ての教員を伝統芸能の進路「提示あり」/「検討のみ」/「検討なし」の3セグメントに分け、<伝統芸能の進路提示を行う理由>に着目した。本年度の調査では、「教員・生徒両軸での伝統芸能への接点として、伝統芸能を組み込んだ包括的なキャリア教育」「伝統芸能の職業に就くための道筋と職業としてのやりがいの提示」を軸とした提案を行う。令和5年度調査における子供本人の興味関心の向上、令和6年度調査における保護者への伝統芸能の理解向上・後押しできる情報発信の次のステップとして、教員が提示する選択肢の1つに養成所を追加することを目指す。



日頃の授業接触による下地作りとしての伝統芸能授業拡大に向けた支援

✓ 伝統芸能授業トータルサポート

キャリア形成の取り組みを行う中で、伝統芸能の授業がある学校教員が伝統芸能の進路を勧めることが多く(Q1,Q5)、どの学校にも伝統芸能について学ぶ授業を取り入れやすくする必要があると言える。4割以上の教員で“出前授業”が進路情報源の機会として活用されていることから(Q2)、道具の貸し出しから授業の進行を含めた、総合的な支援を行う学習パッケージとして提供することが効果的である(Q7,Q8,Q9)。

◆『生徒・学生が親しみやすい体験型授業プラン』の特徴

- ・養成所で実際に指導を行っている講師が派遣され、授業を進行する
- ・道具の貸出も兼ねた、生徒・学生が道具に実際に触ってみるような体験型ワークショップ
- ・授業時間の確保が難しい場合にも対応できるよう、短時間プランを用意

✓ 地方向け戦略

伝統芸能の授業に関して地方部にフォーカスすると、生徒・学生が興味を持つと考えている内容は、中部地方では演目の観賞、九州地方では楽器に触れる等の体験が挙げられている(Q7)。一方で、外部講師との接点の不足とともに、専門知識や道具の不足が授業を出来ない理由(Q8)とされており、九州地方では仕事における情報収集方法として4割以上の教員でYouTubeが用いられていることから(Q26)、動画配信による演目観賞・観賞を授業でも取り入れられるようにする、前述のパッケージを地方でも提供できるような環境整備が必要となる。

✓ 授業拡大と合わせた資料提示依頼

生徒・学生に伝統芸能の進路を提示する教員の中には、養成所に関する資料の学校内配布・掲示によって、国立劇場養成所を認知した人が一定数存在する(Q19)。一般層への認知経路として有効であるため、上記授業の提供・拡大のための接触に合わせて資料の掲示依頼を行うことで、一般層に多い理数系分野の教員等(SC7)、進路指導を担当しているが伝統芸能の授業に接点のない層への認知を高めていくことに繋がると言える。

認知が薄い層へのアプローチと、更なる内容理解に向けた“未経験”イメージの転換（関心層の増加）

✓ 生徒に“伝統芸能の進路を提示したいが出来ない”ことの解消

全体として、国立劇場養成所を知らない層は7割弱となり(Q18)、依然として学校教員に対する国立劇場養成所の認知度向上が望まれる。伝統芸能を進路として提示した経験がある教員の中で、4分の1の生徒・学生は伝統芸能に関わる仕事に就いていることや(Q14)、生徒・学生に対して伝統芸能の進路提示を検討のみしていた教員では、進路として伝統芸能を考えたときに、始め方がわからないことがハードルとなっていることから(Q17)、国立劇場養成所が真っ先に選択肢となるように、どのような施設なのかをイメージしやすい形で知らせていくことが必要となる。

✓ ライト層に向けた周知内容の工夫

◆ 国立劇場養成所自体の認知向上

国立劇場養成所の名前のみの場合も含めた認知経路(Q19)として特にテレビが挙げられたほか、一般層からはWebサイトからの認知も多いことから、テレビなどの従来型メディアに限らず、Webメディアも絡めた露出拡大が必要となる。

◆ 進路の選択肢としての認知向上

生徒・学生への進路指導のために、伝統芸能を進路として提示したことのある層は書籍や新聞などの従来型メディアとともに、「就職情報誌」を活用しており(Q2)、伝統芸能の進路が就職と並列に考えられるものと読み取れる。また、プロになって活躍できるか、収入等の安定性が伝統芸能の進路における不安材料として挙げられていたことから(Q17)、キャリアイメージを形成しやすい情報提供も重要となる。単に就職先としての紹介ではなく、国立劇場養成所を養成後の進路が決定している学校（省庁大学校や企業内訓練校）、芸能系の専門学校と並べて特徴を紹介するなど、類似した進路先と並べて想像しやすいキャリアの1つとして周知していくことが効果的だと考えられる。

✓ 経験有無による応募可否認知

未経験でも研修生に応募できることの認知は、提示経験があっても半数程度の認知となっていた(Q20)。また、教員が求める養成所の在り方として、伝統芸能を進路として提示したことのある教員では、「未経験から始められる」の回答が少なく(Q23)、国立劇場養成所の存在を知り進路先として捉えていたとしても、未経験でも入所可能なことは十分に認知されていない可能性がある。

また、伝統芸能を進路先として推奨する理由に、専門性ややりがい、伝統芸能の担い手となることが挙げられたが(Q16)、養成所の在り方として研修中～研修後のサポート体制の充実を望む声が多いことから(Q17)、芸能というクリエイティブな業種であっても、生徒を送り出す立場の教員に対しては、寮や学費面等在所中に受けることのできるサポート体制が充実していることをアピールしていくことこそが、応募者拡大に向けた効果的なイメージ戦略であると言える。

進路指導の実態に合わせた適切な情報発信方法

✓ 全般的な進路指導における情報源

普段の進路指導時の情報収集方法として、学校・団体のパンフレットやHPを半数以上の教員が情報源としており(Q2)、学校のパンフレットについては手元資料として準備することも多い(Q4)。生徒・学生へ伝統芸能を進路として勧める際に教員目線で知りたい情報として、3割以上が「プロになるために必要な能力」「プロになった後のキャリアイメージ」「研修中にかかる費用」「定着率・離職率」を挙げており、教員が進路指導に利用しやすいよう、公式パンフレット・HPの両軸で強調していくべき項目と言える。

✓ 中学校教員に向けた情報発信

◆ 保護者との情報を媒介する立場

中学校では、“プロになる”ことを念頭に置いた、プロに至るまでの費用や仕事内容に関する情報が必要とされており(Q21)、保護者への理解を得るための情報と言える。教員や生徒が判断を下すのではなく、保護者に対して情報を媒介することを考慮し、保護者用にそのまま渡すことが可能な「ロードマップ+プロになってからの活躍事例」等を掲載した簡易資料の用意が有用となる。

◆ 進路情報が集約された情報誌での周知

進路提示を検討のみしていた教員では、キャリア教育の中で進路情報誌・職業図鑑が用いられている(Q2)。学校・企業意見交換会も情報収集先として活用されており、前述の類似施設と併せた掲載を進路情報が集約された情報誌へ行うことが実効性のある広報手段となる。

✓ 高等学校に向けた情報発信

◆ 生徒自身が判断する材料の提供

高等学校では定着率や離職率、養成所のカリキュラム・スケジュールといった情報が求められており(Q21)、生徒・学生自身が入所することを判断出来るような、養成所での生活が見えるコンテンツが有益となる。

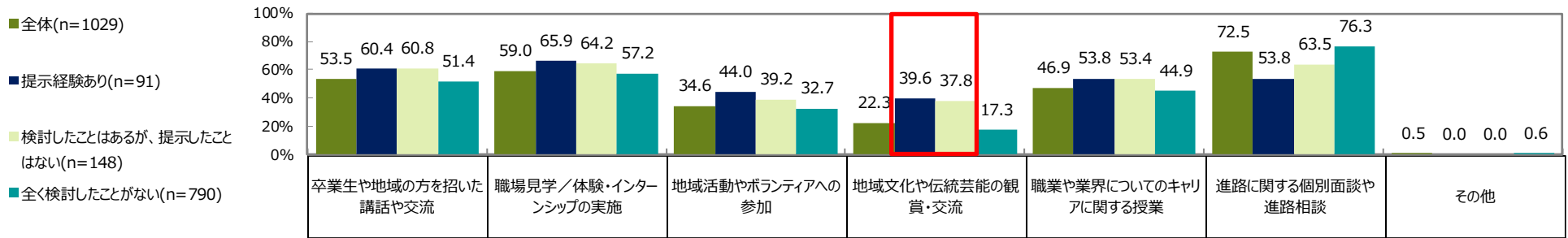
◆ 就職との比較

中学校と同様の進路情報誌・職業図鑑とともに、高等学校では合同企業説明会も情報交換の場として利用されている(Q2)。伝統芸能の進路を検討のみ行っていた層において、SNSも活用されており、SNSアカウントでの門戸が広い進路としてのアピールと、公式HPへの流入を目指すことが有効である。

進路提示・検討経験ありの教員は、キャリア教育の中で伝統芸能の鑑賞・交流を積極的に実施

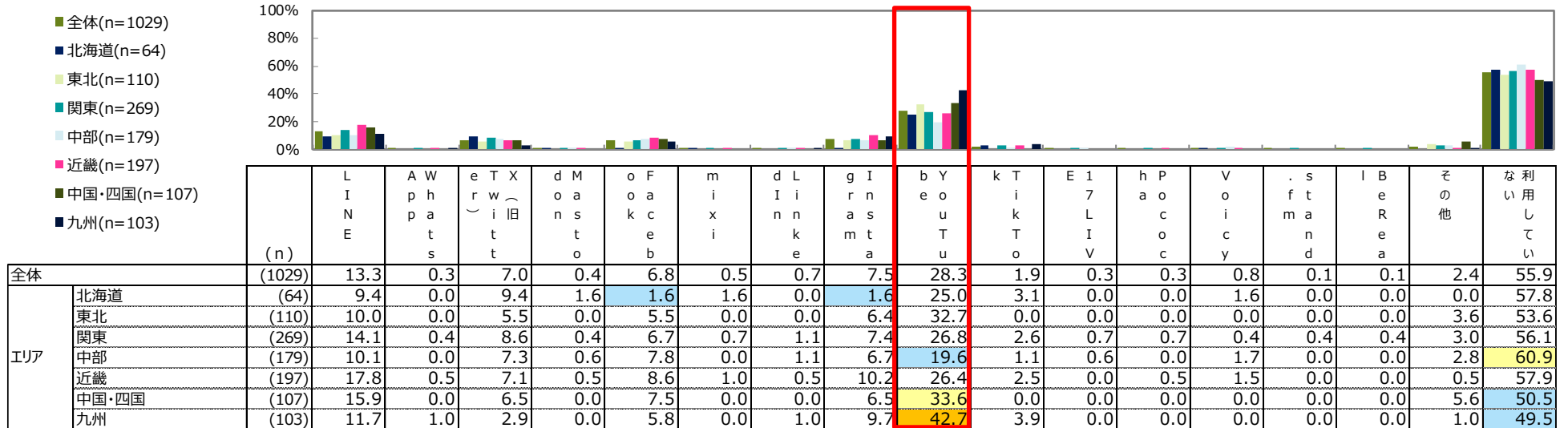
Q1. 生徒・学生のキャリア形成に向けて、どのような取り組みをしていますか／していましたか。（複数回答）

○ 伝統芸能の進路提示経験（Q10）別で見ると、進路提示あり層（以降、提示あり層）と、全く検討したことがない層（以降、検討なし層）では、**地域文化や伝統芸能の鑑賞・交流の取り組み有無**に大きな差が見られる。同様に、検討したことはあるが、提示したことはない層（以降、検討のみ層）でも、検討なし層よりも取り組みを導入している割合が高い。一方、検討なし層では、個別面談や進路相談を積極的に行っている。



Q26. あなたが普段利用しているSNSは何ですか。プライベートと仕事においてどのSNSで情報収集をしているかを教えてください。（複数回答） -2. 仕事における情報収集SNS

○ 仕事における情報収集で利用されているSNSのうち **YouTubeの利用が最も多く**、エリア別で見ると **九州では4割以上が利用**している。



① 伝統芸能を組み込んだキャリア教育の促進

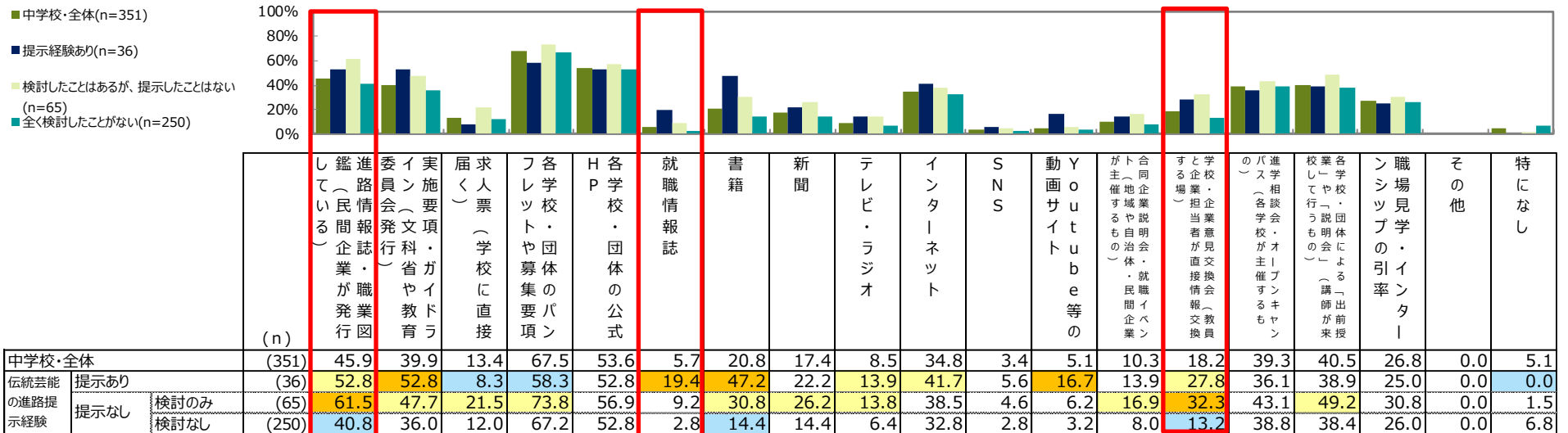
は全体より10ポイント、
は全体より10ポイント、
は全体より5ポイント以上高い
は全体より5ポイント以上低い
* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

進路提示・検討経験ありの教員は、キャリア教育の中で就活関連情報も参照

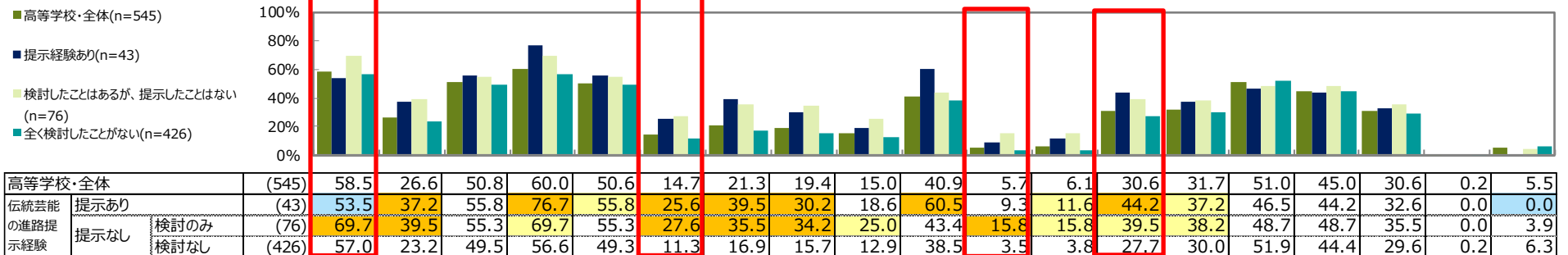
Q2. 生徒・学生への進路指導や情報提供にあたり、主にどのような資料・媒体から情報を収集していますか／していましたか。(複数回答)

○中学校では、提示あり層で「実施要項・ガイドライン（文科省や教育委員会発行）」「書籍」「就職情報誌」「YouTube等の動画サイト」、検討のみ層で「**進路情報誌・職業図鑑（民間企業が発行している）**」「**学校・企業意見交換会（教員と企業担当者が直接情報交換する場）**」が多い。
○高等学校では、提示あり層・検討のみ層で共通して「実施要項・ガイドライン（文科省や教育委員会発行）」「書籍」「就職情報誌」「新聞」が多く、提示あり層では「インターネット」「各学校・団体のパンフレットや募集要項」「**合同企業説明会・就職イベント（地域や自治体・民間企業が主催するもの）**」、検討のみ層で「**進路情報誌・職業図鑑（民間企業が発行している）**」「**SNS**」が多い。

中学校



高等学校

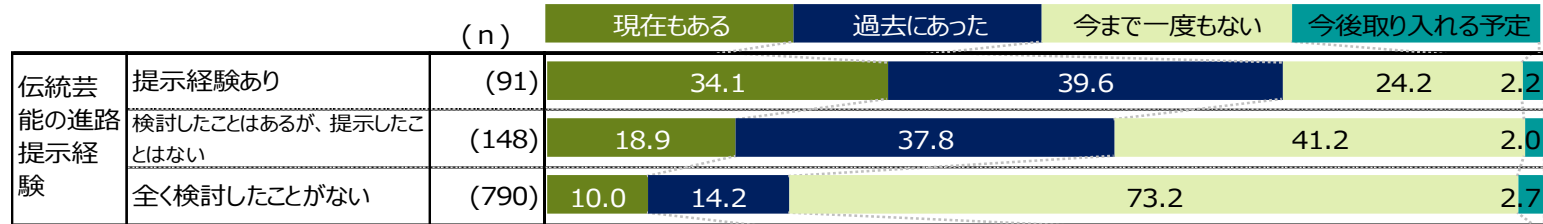


伝統芸能を学ぶ授業の実施割合における、進路提示経験有無による違い

Q5.あなたのお勤め先の学校では伝統について学ぶ授業はありますか。※社会や公民の授業の中で一部触れるものは除き、伝統に特化した授業や課外活動を指します。(単一回答)

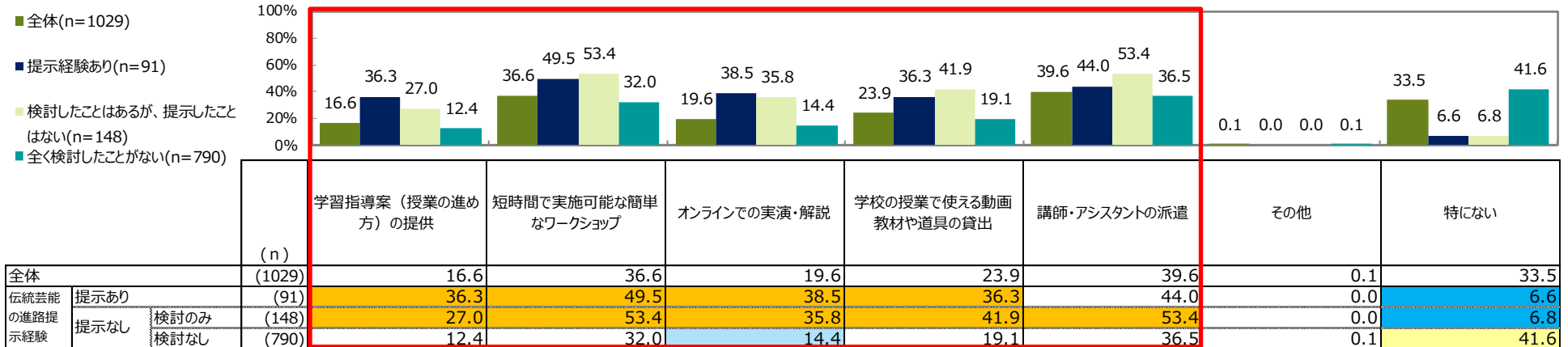
1. 伝統芸能(能・狂言、日本舞踊、歌舞伎、文楽(人形浄瑠璃)落語等)

○伝統芸能の進路提示経験(Q10)別で見ると、提示あり層と、検討なし層では、伝統芸能の授業有無(今まで一度もないの割合)に大きく差が見られる。検討のみ層でも、半数以上が過去～現在～未来で授業を取り入れている。



Q9. 伝統芸能に関わる団体から以下の支援を受けたとして、協力したいと思えるものはありますか。(複数回答)

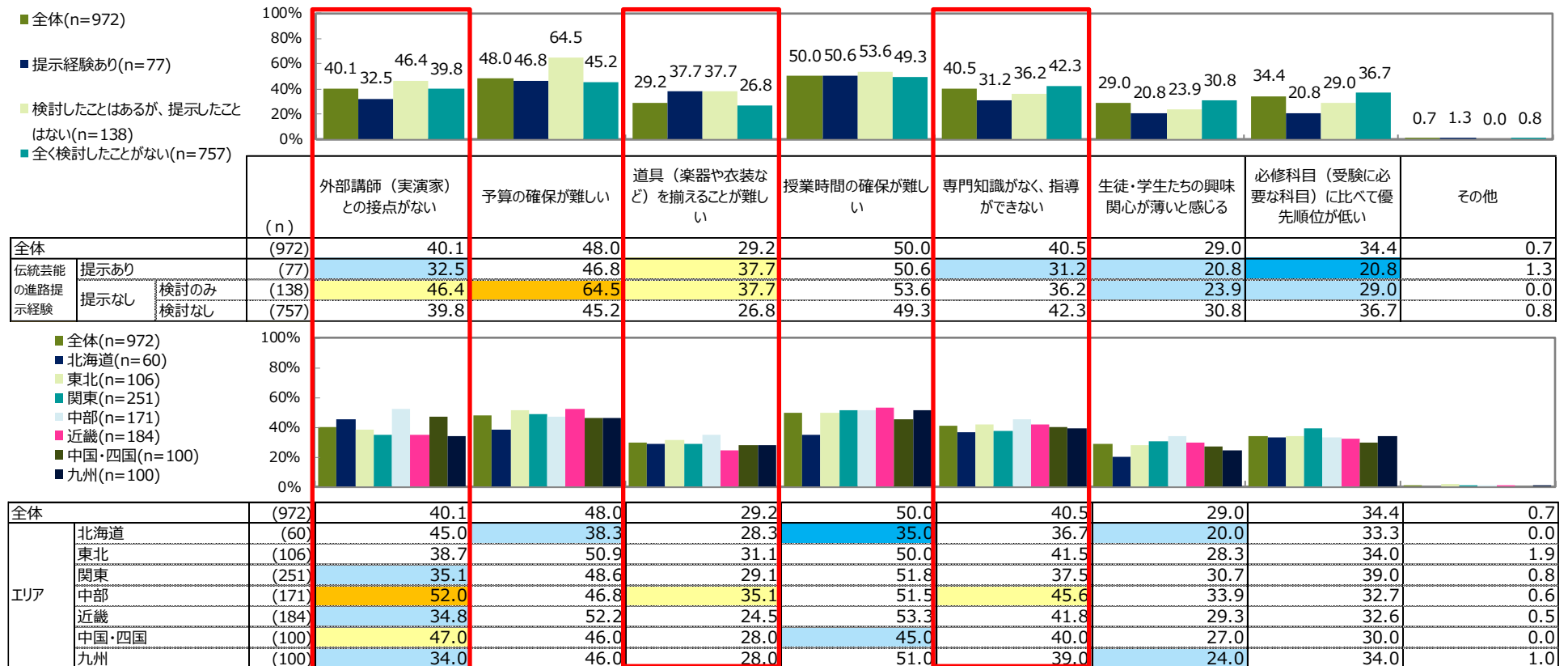
○提示あり・検討のみ層で共通して「授業の進め方」「ワークショップ」「オンライン解説」「動画や教材の貸出」を求めており、検討のみ層では、特に講師・アシスタントの協力が求められている。



予算や授業時間に加え、外部講師や道具確保も伝統芸能の授業が出来ていない要因

Q8.日本の伝統文化について、学ぶ授業がない理由としてどのようなことが当てはまりますか。(複数回答)

- 全体では、半数程度の教員が授業時間や予算の確保を理由として上げているが、検討あり層では予算確保を最も大きな理由として挙げている一方で、**外部講師との接点**や提示あり層と共通して**道具の確保**も要因となっている。
- エリア別でみると、中部地方や中国・四国地方において半数近くが外部講師との接点の有無を要因として挙げており、他エリアと比較して、中部地方で道具の確保や知識不足も理由の一つとして挙げる教員が多い。



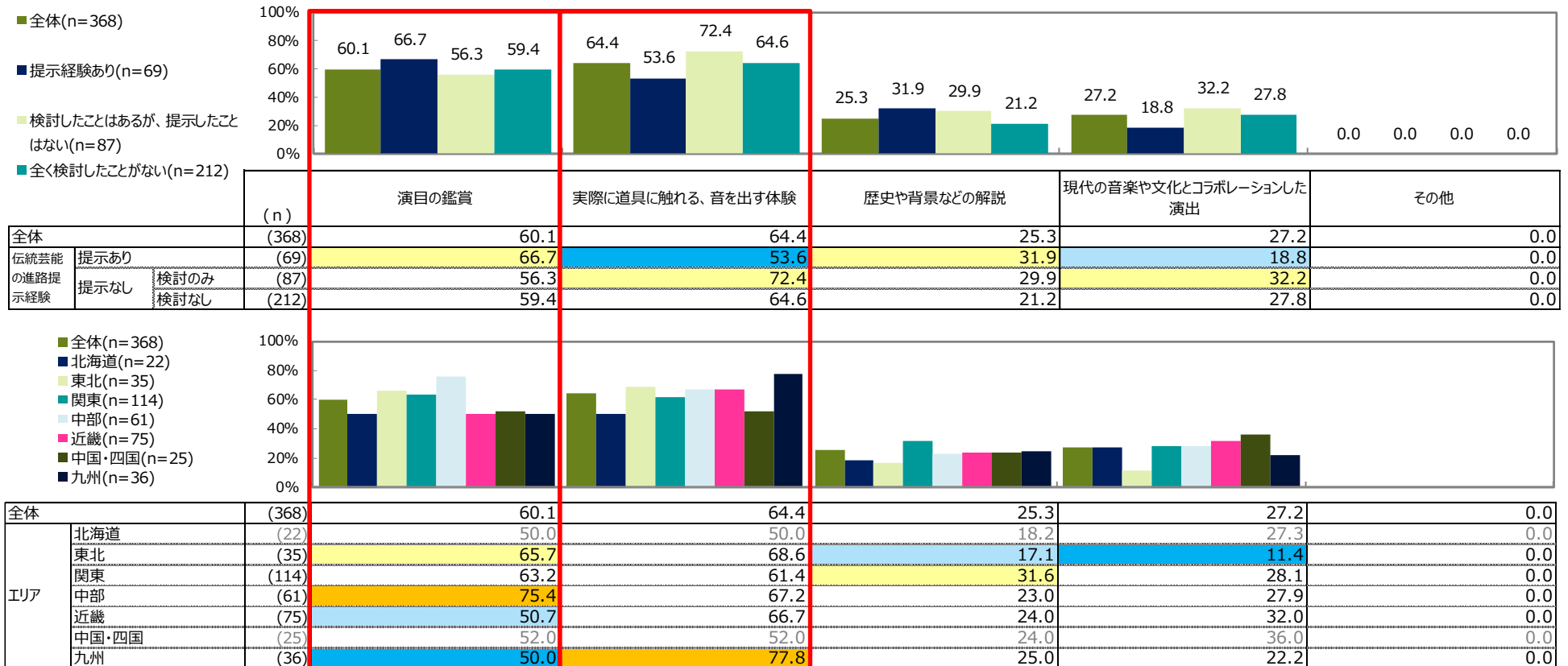
① 伝統芸能を組み込んだキャリア教育の促進

は全体より10ポイント、
は全体より5ポイント以上高い
は全体より10ポイント、
は全体より5ポイント以上低い
* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

伝統芸能を通して還元したい学びは、進路提示あり層で伝統的、検討のみ層は親しみやすい体験

Q7.日本の伝統芸能について、生徒・学生が最も興味関心を示すのはどのような要素だと考えますか。(複数回答)

- 提示あり層では演目の鑑賞・歴史や背景の解説に興味関心を抱くものと考えている一方で、検討のみ層は道具に触れたり音を出す体験や現代音楽とのコラボ演出を重要視している。**提示あり層は伝統を重んじる考えであり、検討のみ層は体験を交えた親しみやすさを重視していることが窺える。**
- エリア別で見ると、他エリアと比較して、中部地方で7割以上が演目観賞、九州地方で道具に触れる・音を出す体験を重要視している。



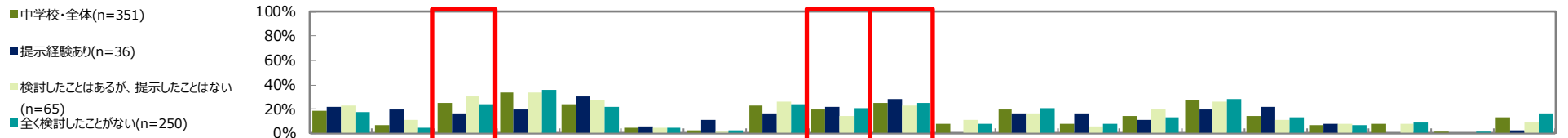
② 伝統芸能を職業にするまでの道筋と職業としてのやりがいの提示

は全体より10ポイント、
は全体より5ポイント以上高い
は全体より10ポイント、
は全体より5ポイント以上低い
 * グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

適性のほか、始め方が分からないことが伝統芸能の職業就職における不安要素の一つ

Q17. 生徒・学生が伝統芸能の職業に就くことについて、あなたが不安に感じることは何ですか。（複数回答）

- 中学校では、「生徒・学生に適性があるかわからない」「**プロになって活躍できるかわからない**」「**収入が低そう・安定した仕事量が得られなさそう**」が挙げられる。提示あり層で「生徒・学生に進んで欲しい進路が他にある」が多く、「身体的・精神的な負担が大きそう」「募集している性別が合わない」「長く続けることが難しそう」も不安を感じている要素となっている。検討のみ層では、「**始め方がわからない**」「生徒・学生が伝統芸能に興味がない」が挙げられている。
- 高等学校の教員における不安要素は、上位3位は中学校と共通している。提示あり層で「募集している年齢が合わない」「募集の頻度が少ない」が多く、検討のみ層で「収入が低そう・安定した仕事量が得られなさそう」が多く挙げられたほか、「**始め方がわからない**」などが挙げられる。
- 全体として職業としての具体的なイメージがかけている事による不安が大きい。検討のみ層では**職業の入口が明確になること（＝養成所の存在）**が求められていることがわかる。



中学校

	(n)	り望生 そし うて い学 進が 路他 がに あ希	る徒 い・ 進学 路生 が他 に進 んで	始め 方が わか らな い	ある 徒 が 学 生 に 適 性 が	募集 の 頻 度 が 少 な い	合 募 集 な し て い る 年 齢 が	合 募 集 な し て い る 性 別 が	メ 将 来 の ジ ョ ー ナ リ ア イ ン 	金 が か か る そ ま う で お	な し た そ う 事 務 量 が 得 ら れ な い	取 入 る 仕 事 の 親 が 反 対 す る	生 徒 ・ 学 生 の 親 が 反 対 す る	わ か ら な い の あ る 仕 事 か	担 身 体 的 な 精 神 的 な 負 担	能 に 興 味 が な い 伝 統 芸 能	生 徒 ・ 学 生 が な い 伝 統 芸 能	き る か な か つ た ら な 活 躍 で	し そ く 続 け る こ と が 難 し	ミ ン グ を 決 断 す る タ イ 	が な く 進 路 へ の 選 択 肢	他 の 進 路 の 選 択 肢	そ の 他	特 に な い
中学校・全体	(351)	18.8	7.1	24.8	33.9	23.6	4.8	2.8	23.4	19.7	25.1	8.0	19.7	8.3	14.2	26.8	14.0	6.8	8.0	0.9	13.4			
伝統芸能 の進路提 示経験	提示あり	(36)	22.2	19.4	16.7	19.4	30.6	5.6	11.1	16.7	22.2	27.8	0.0	16.7	16.7	11.1	19.4	22.2	8.3	0.0	0.0	2.8		
	提示なし	(65)	23.1	10.8	30.8	33.8	27.7	4.6	1.5	26.2	13.8	23.1	10.8	16.9	6.2	20.0	26.2	10.8	7.7	7.7	0.0	9.2		
検討のみ	(65)	23.1	10.8	30.8	33.8	27.7	4.6	1.5	26.2	13.8	23.1	10.8	16.9	6.2	20.0	26.2	10.8	7.7	7.7	0.0	9.2			
検討なし	(250)	17.2	4.4	24.4	36.0	21.6	4.8	2.0	23.6	20.8	25.2	8.4	20.8	7.6	13.2	28.0	13.6	6.4	9.2	1.2	16.0			

高等学校

	(n)	り望生 そし うて い学 進が 路他 がに あ希	る徒 い・ 進学 路生 が他 に進 んで	始め 方が わか らな い	ある 徒 が 学 生 に 適 性 が	募集 の 頻 度 が 少 な い	合 募 集 な し て い る 年 齢 が	合 募 集 な し て い る 性 別 が	メ 将 来 の ジ ョ ー ナ リ ア イ ン 	金 が か か る そ ま う で お	な し た そ う 事 務 量 が 得 ら れ な い	取 入 る 仕 事 の 親 が 反 対 す る	生 徒 ・ 学 生 の 親 が 反 対 す る	わ か ら な い の あ る 仕 事 か	担 身 体 的 な 精 神 的 な 負 担	能 に 興 味 が な い 伝 統 芸 能	生 徒 ・ 学 生 が な い 伝 統 芸 能	き る か な か つ た ら な 活 躍 で	し そ く 続 け る こ と が 難 し	ミ ン グ を 決 断 す る タ イ 	が な く 進 路 へ の 選 択 肢	他 の 進 路 の 選 択 肢	そ の 他	特 に な い
高等学校・全体	(545)	14.7	7.0	19.8	33.8	20.2	3.5	1.8	25.3	20.9	29.2	11.4	22.9	11.4	18.3	31.2	13.0	4.8	5.7	0.0	13.2			
伝統芸能 の進路提 示経験	提示あり	(43)	4.7	14.0	16.3	30.2	30.2	18.6	7.0	20.9	23.3	18.6	14.0	25.6	16.3	11.6	30.2	18.6	4.7	0.0	0.0	14.0		
	提示なし	(76)	22.4	13.2	27.6	38.2	21.1	5.3	5.3	28.9	25.0	39.5	14.5	17.1	14.5	13.2	27.6	15.8	9.2	13.2	0.0	3.9		
検討のみ	(76)	22.4	13.2	27.6	38.2	21.1	5.3	5.3	28.9	25.0	39.5	14.5	17.1	14.5	13.2	27.6	15.8	9.2	13.2	0.0	3.9			
検討なし	(426)	14.3	5.2	18.8	33.3	19.0	1.6	0.7	25.1	20.0	28.4	10.6	23.7	10.3	20.0	31.9	12.0	4.0	4.9	0.0	14.8			

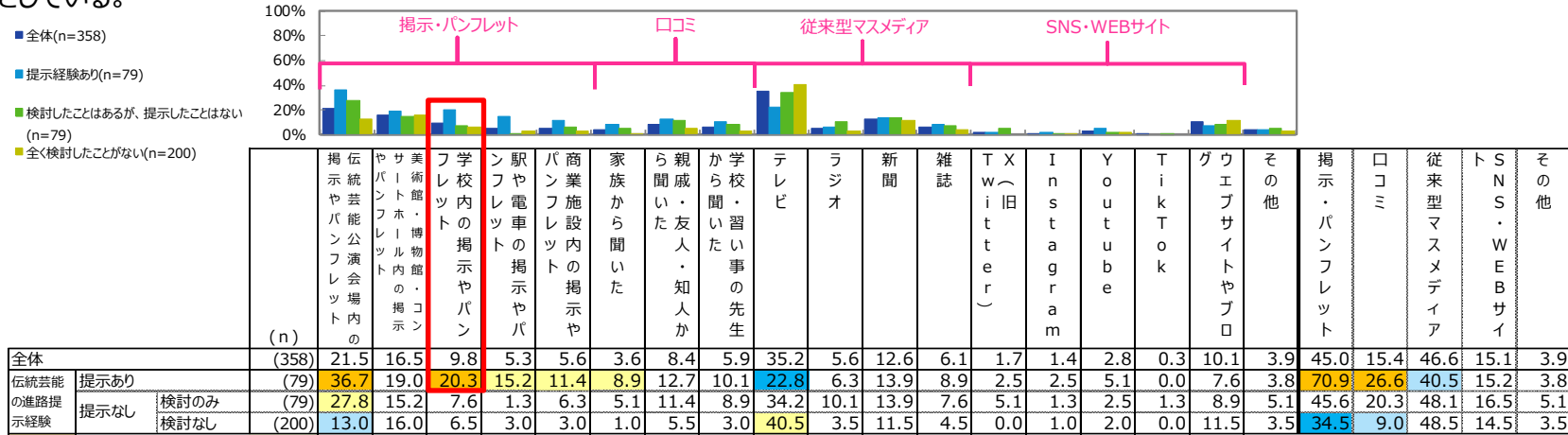
② 伝統芸能を職業にするまでの道筋と職業としてのやりがいの提示

は全体より10ポイント、
は全体より10ポイント、
は全体より5ポイント以上高い
は全体より5ポイント以上低い
* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

養成所の認知と伝統芸能自体の認知経路は主に掲示やパンフレット、従来型マスメディア

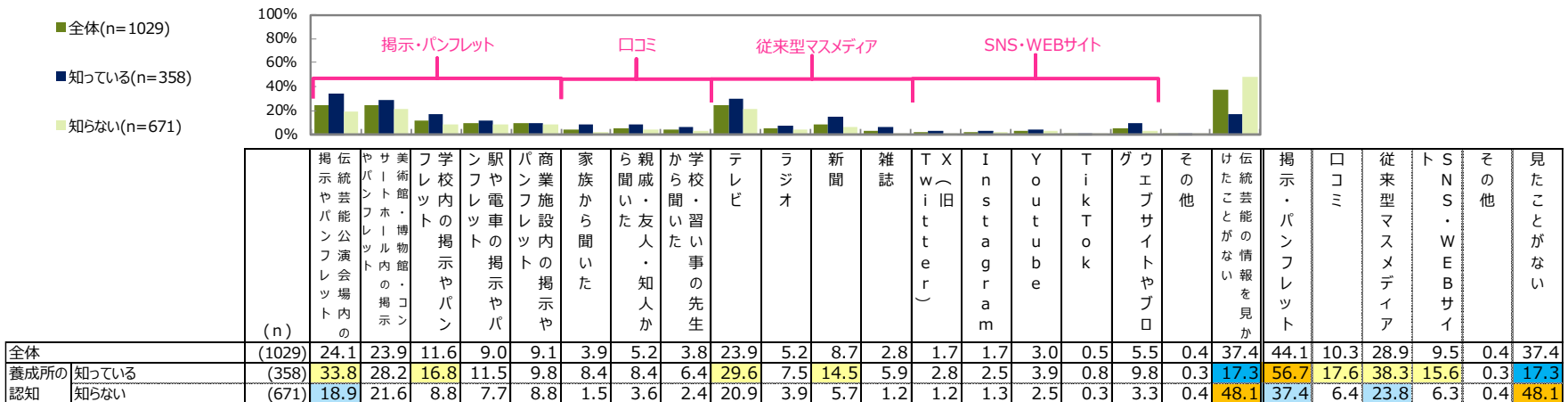
Q19. あなたは、国立劇場養成所を何で知りましたか。(複数回答)

○ 掲示資料やパンフレット、従来型マスメディアからの認知が多いが、口コミやSNSからの認知も一定数見られる。提示あり層は伝統芸能公演会場や学校内での掲示・パンフレットからの情報を受け取りつつ、検討のみ層はテレビや美術館・博物館・コンサートホール等の掲示やパンフレットから国立劇場養成所の存在を認知経路としている。



Q22. あなたが伝統芸能の公演や体験、募集の情報を目にしたことがある、耳にしたことがある場面を選択してください。(複数回答)

○ 伝統芸能自体の認知経路も同様に、掲示・パンフレットや従来型マスメディアが多いが、養成所を認知している層（名前のみを含む）については、口コミやSNSを經由して情報を入手していることが窺える。



② 伝統芸能を職業にするまでの道筋と職業としてのやりがいの提示

■ は全体より10ポイント、■ は全体より5ポイント以上高い
■ は全体より10ポイント、■ は全体より5ポイント以上低い
 * グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

教員が望む養成所の在り方は、研修前後のサポート体制が充実していること

Q23.あなたは、伝統芸能を学ぶ養成所がどのようなところであれば生徒・学生を通わせたいと思いますか。あてはまるものを全て選択してください。※職業として考えていない場合は、考える場合を想像して回答してください。（複数回答）

○「研修中に経済的支援（奨学金・宿舍・住宅費補助など）が受けられる」「研修修了後に十分な仕事や収入が得られる」「修了後は必ずプロになれる」「研修修了後もサポート（道具貸与・仕事の斡旋など）が受けられる」ことが求められている。一方で、提示あり層は「**未経験から始められる**」の回答が少なく、あくまでも**経験者が進む進路として捉えている可能性**が考えられる。

○中学校では、提示あり層で「人間国宝などの一流の講師から指導を受けられる」「性別に関係なく始められる」「研修生になる前に実際の研修を体験できる」、検討のみ層で「プロの公演で実習する機会がある」「研修中に経済的支援を受けられる」「未経験から始められる」が挙げられる。

○高等学校では、提示あり層で「プロの公演で実習する機会がある」「研修生になる前に実際の研修を体験できる」、検討のみ層で「プロの公演で実習する機会がある」「人間国宝などの一流の講師から指導を受けられる」「研修修了後もサポート（道具貸与・仕事の斡旋など）を受けられる」が挙げられる。

